



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和5年12月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和5年9月	令和5年12月	前回調査との差
茨城県	49.4	51.8	+2.4
県北地域	48.9	51.6	+2.7
県央地域	54.2	54.0	△0.2
鹿行地域	43.6	48.4	+4.8
県南地域	51.1	47.8	△3.3
県西地域	49.0	56.6	+7.6

《景気の先行き判断DI》

	令和5年9月	令和5年12月	前回調査との差
茨城県	51.6	48.6	△3.0
県北地域	50.5	44.7	△5.8
県央地域	51.6	49.0	△2.6
鹿行地域	50.0	51.6	+1.6
県南地域	54.3	42.8	△11.5
県西地域	51.5	54.6	+3.1

令和6年(2024年)1月25日公表

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断DI	3
	(2) 景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断DI	5
	(2) 景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問合せ先
茨城県統計課商工農林グループ TEL:029-301-2656
公式サイトのURL
<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
	計	50	50	50	50	50	250

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	237 人	94.8%
県北地域	50 人	47 人	94.0%
県央地域	50 人	50 人	100.0%
鹿行地域	50 人	46 人	92.0%
県南地域	50 人	45 人	90.0%
県西地域	50 人	49 人	98.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和5年12月調査の調査期間は、令和5年12月5日から20日までである。

6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \text{ 点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{ 点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{ 点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{ 点} \times 11.0\%) + (0 \text{ 点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは51.8となった。令和5年9月調査（以下「前回調査」という。）より2.4ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

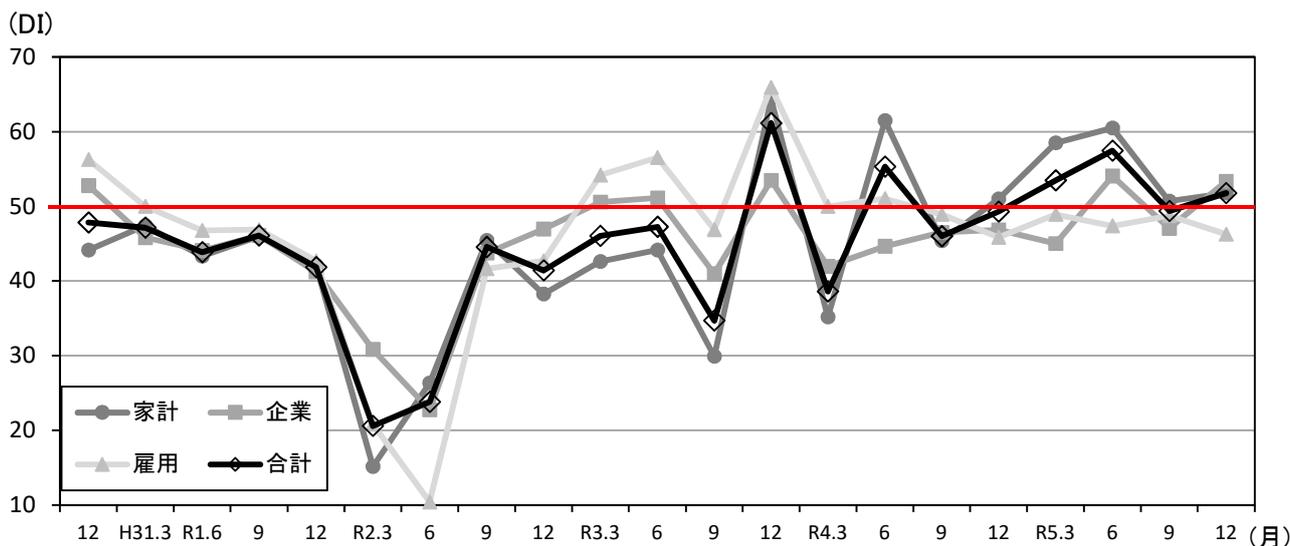
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		49.3	53.5	57.5	49.4	51.8
家計動向関連		51.0	58.5	60.5	50.7	51.8
小売関連		44.6	49.6	58.6	47.4	43.9
飲食関連		65.5	68.1	69.4	56.9	64.1
サービス関連		53.0	65.1	59.1	50.8	55.4
住宅関連		50.0	52.8	63.9	59.4	55.6
企業動向関連		46.8	45.0	54.1	47.0	53.3
農林水産業		40.6	28.1	46.9	40.6	50.0
製造業		48.4	46.0	55.9	45.5	53.8
非製造業		46.1	47.7	53.6	50.9	53.7
雇用関連		45.8	48.9	47.4	48.8	46.3

表1-2 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	4.9%	8.1%	8.7%	2.5%	5.1%
やや良くなっている	24.9%	29.7%	37.8%	25.2%	23.6%
変わらない	39.3%	36.6%	32.0%	44.5%	48.9%
やや悪くなっている	24.2%	19.4%	17.8%	22.7%	18.1%
悪くなっている	6.7%	6.2%	3.7%	5.0%	4.2%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは48.6となった。前回調査より3.0ポイント低下し、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

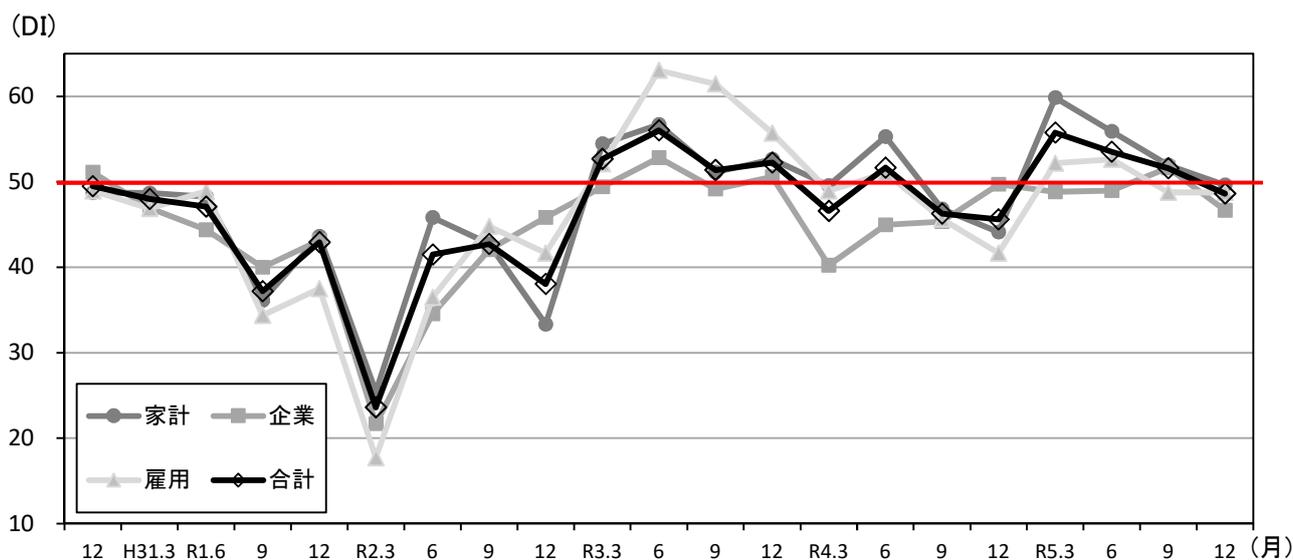
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		45.6	55.8	53.5	51.6	48.6
家計動向関連		44.1	59.8	55.9	51.9	49.6
小売関連		41.4	54.9	53.0	45.6	46.1
飲食関連		47.6	66.7	65.3	61.1	60.9
サービス関連		45.9	63.7	56.3	54.2	47.9
住宅関連		41.7	52.8	52.8	59.4	63.9
企業動向関連		49.7	48.8	49.0	51.6	46.7
農林水産業		46.9	37.5	43.8	53.1	50.0
製造業		48.4	49.4	50.0	53.2	43.1
非製造業		52.3	50.8	49.1	49.1	50.9
雇用関連		41.7	52.2	52.6	48.8	48.8

表1-4 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	1.8%	8.4%	5.0%	2.9%	2.5%
やや良くなっている	18.2%	32.6%	27.4%	24.8%	17.3%
変わらない	47.0%	38.1%	46.5%	51.3%	56.1%
やや悪くなっている	26.7%	15.4%	19.1%	17.6%	20.3%
悪くなっている	6.3%	5.5%	2.1%	3.4%	3.8%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは51.6となった。前回調査より2.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		48.2	44.6	58.2	48.9	51.6
	家計動向関連	52.9	47.6	60.8	54.5	52.7
	企業動向関連	44.4	37.5	55.0	38.3	51.7
	雇用関連	25.0	50.0	50.0	50.0	43.8

表2-2 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	1.8%	0.0%	8.2%	0.0%	2.1%
やや良くなっている	30.4%	21.6%	40.8%	34.0%	29.8%
変わらない	33.9%	45.1%	30.6%	31.9%	42.6%
やや悪くなっている	26.8%	23.5%	16.3%	29.8%	23.4%
悪くなっている	7.1%	9.8%	4.1%	4.3%	2.1%

② 県央地域

景気の現状判断DIは54.0となった。前回調査より0.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を5期連続で上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		55.2	59.4	61.2	54.2	54.0
	家計動向関連	55.3	64.6	66.7	56.0	55.0
	企業動向関連	55.0	50.0	53.3	51.7	56.3
	雇用関連	55.0	50.0	50.0	50.0	37.5

表2-4 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	12.1%	5.4%	6.1%	4.2%	8.0%
やや良くなっている	25.9%	46.4%	46.9%	27.1%	26.0%
変わらない	36.2%	30.4%	32.7%	52.1%	42.0%
やや悪くなっている	22.4%	16.1%	14.3%	14.6%	22.0%
悪くなっている	3.4%	1.8%	0.0%	2.1%	2.0%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは48.4となった。前回調査より4.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		49.6	51.4	55.6	43.6	48.4
	家計動向関連	50.7	50.8	54.3	39.7	44.6
	企業動向関連	48.6	51.5	57.7	50.0	53.6
	雇用関連	45.0	56.3	58.3	50.0	56.3

表2-6 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	3.5%	7.4%	13.3%	2.1%	2.2%
やや良くなっている	21.1%	27.8%	24.4%	21.3%	19.6%
変わらない	49.1%	35.2%	37.8%	38.3%	54.3%
やや悪くなっている	22.8%	22.2%	20.0%	25.5%	17.4%
悪くなっている	3.5%	7.4%	4.4%	12.8%	6.5%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは47.8となった。前回調査より3.3ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		47.3	51.4	55.1	51.1	47.8
	家計動向関連	49.3	62.5	62.1	52.8	48.1
	企業動向関連	45.6	38.9	50.0	51.6	48.2
	雇用関連	40.0	30.0	25.0	37.5	43.8

表2-8 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	7.1%	17.0%	10.2%	4.3%	4.4%
やや良くなっている	19.6%	13.2%	32.7%	23.4%	17.8%
変わらない	35.7%	37.7%	30.6%	48.9%	51.1%
やや悪くなっている	30.4%	22.6%	20.4%	19.1%	17.8%
悪くなっている	7.1%	9.4%	6.1%	4.3%	8.9%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは56.6となった。前回調査より7.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

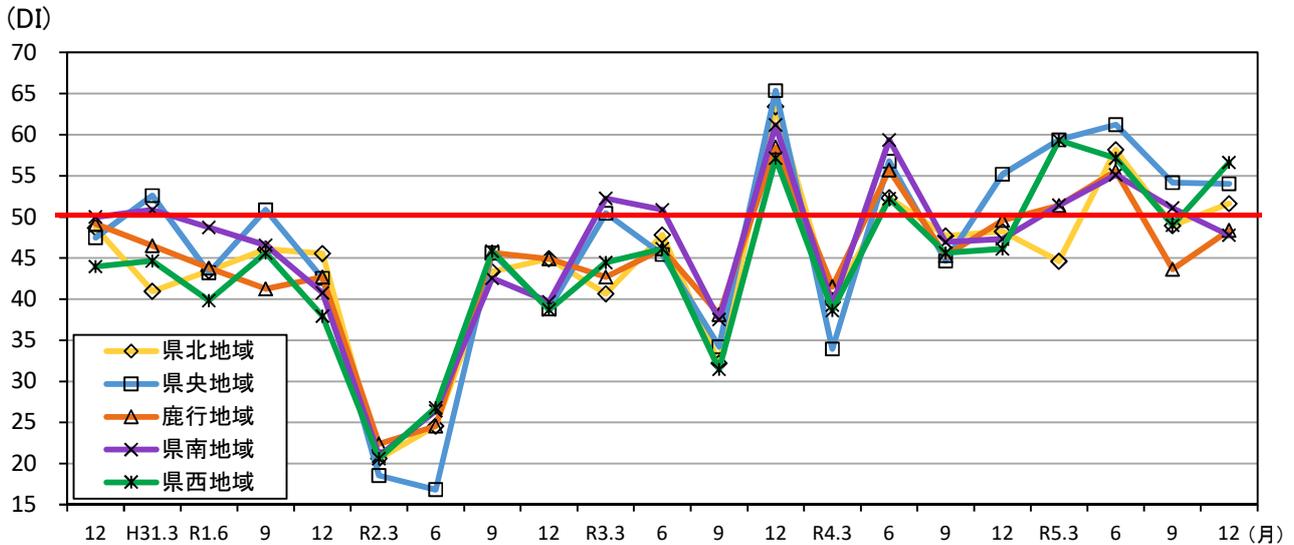
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		46.1	59.3	57.1	49.0	56.6
家計動向関連		46.3	65.7	58.3	50.9	57.8
企業動向関連		42.1	47.4	55.0	43.8	56.3
雇用関連		60.0	60.0	56.3	56.3	50.0

表2-10 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	0.0%	10.2%	6.1%	2.0%	8.2%
やや良くなっている	27.6%	37.3%	42.9%	20.4%	24.5%
変わらない	41.4%	35.6%	28.6%	51.0%	55.1%
やや悪くなっている	19.0%	13.6%	18.4%	24.5%	10.2%
悪くなっている	12.1%	3.4%	4.1%	2.0%	2.0%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月
県全体	47.8	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4	51.8
県北	48.7	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2	48.9	51.6
県央	47.5	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2	54.2	54.0
鹿行	49.1	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6	43.6	48.4
県南	50.0	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1	51.1	47.8
県西	44.0	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1	49.0	56.6
全国	46.9 48.2	45.1 46.7	44.3 43.3	45.4 45.7	39.7 40.7	14.1 15.9	38.6 38.0	48.2 48.7	36.0 36.5	47.8 49.5	45.8 45.4	42.7 43.3	58.3 58.6	47.1 48.9	52.1 51.8	48.9 49.6	48.7 49.0	53.3 55.2	53.6 53.6	49.9 50.4	50.9(季節調整値) 50.9(原数値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは44.7となった。前回調査より5.8ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		40.2	53.9	56.1	50.5	44.7
	家計動向関連	42.6	56.5	60.0	54.5	47.3
	企業動向関連	37.5	50.0	51.7	46.7	40.0
	雇用関連	31.3	50.0	43.8	37.5	43.8

表2-12 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	0.0%	3.9%	6.1%	2.1%	0.0%
やや良くなっている	19.6%	39.2%	32.7%	31.9%	12.8%
変わらない	37.5%	37.3%	40.8%	36.2%	57.4%
やや悪くなっている	26.8%	7.8%	20.4%	25.5%	25.5%
悪くなっている	16.1%	11.8%	0.0%	4.3%	4.3%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは49.0となった。前回調査より2.6ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		43.5	60.7	56.1	51.6	49.0
	家計動向関連	42.1	63.2	61.7	49.1	50.8
	企業動向関連	55.4	53.3	48.3	56.7	43.8
	雇用関連	30.0	65.0	43.8	50.0	56.3

表2-14 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	0.0%	7.1%	6.1%	2.1%	2.0%
やや良くなっている	13.8%	42.9%	28.6%	20.8%	20.0%
変わらない	50.0%	37.5%	49.0%	62.5%	52.0%
やや悪くなっている	32.8%	10.7%	16.3%	10.4%	24.0%
悪くなっている	3.4%	1.8%	0.0%	4.2%	2.0%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは51.6となった。前回調査より1.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
分野					
合計	48.2	53.7	51.7	50.0	51.6
家計動向関連	43.4	58.3	51.7	50.0	49.1
企業動向関連	59.7	45.6	48.1	50.0	57.1
雇用関連	40.0	50.0	66.7	50.0	50.0

表2-16 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	1.8%	13.0%	0.0%	2.1%	2.2%
やや良くなっている	21.1%	16.7%	33.3%	23.4%	19.6%
変わらない	49.1%	46.3%	42.2%	51.1%	63.0%
やや悪くなっている	24.6%	20.4%	22.2%	19.1%	13.0%
悪くなっている	3.5%	3.7%	2.2%	4.3%	2.2%

④ 県南地域

景気の先行き判断DIは42.8となった。前回調査より11.5ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
分野					
合計	47.3	56.6	51.0	54.3	42.8
家計動向関連	44.9	63.3	55.2	57.4	41.7
企業動向関連	52.9	50.0	43.8	50.0	44.6
雇用関連	45.0	40.0	50.0	50.0	43.8

表2-18 回答構成比

	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	5.4%	13.2%	6.1%	6.4%	4.4%
やや良くなっている	10.7%	32.1%	22.4%	21.3%	8.9%
変わらない	55.4%	30.2%	44.9%	55.3%	48.9%
やや悪くなっている	25.0%	17.0%	22.4%	17.0%	28.9%
悪くなっている	3.6%	7.5%	4.1%	0.0%	8.9%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは54.6となった。前回調査より3.1ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期連続で上回った。

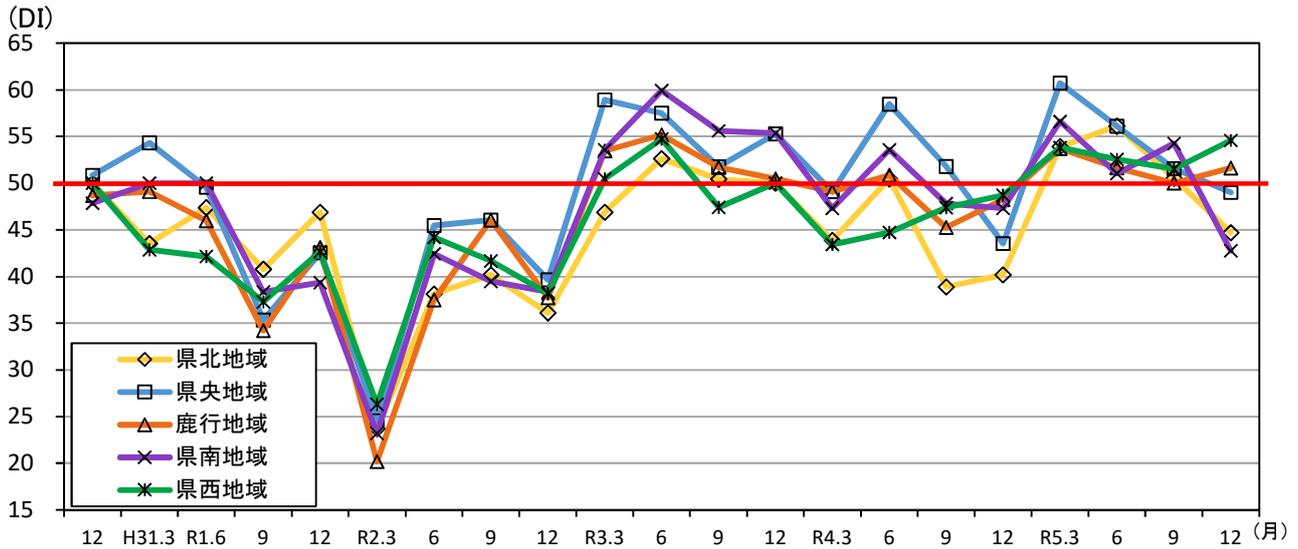
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
合計		48.7	53.8	52.6	51.5	54.6
家計動向関連		47.8	57.9	50.8	49.1	58.6
企業動向関連		47.4	46.1	53.3	54.7	48.4
雇用関連		60.0	55.0	62.5	56.3	50.0

表2-20 回答構成比

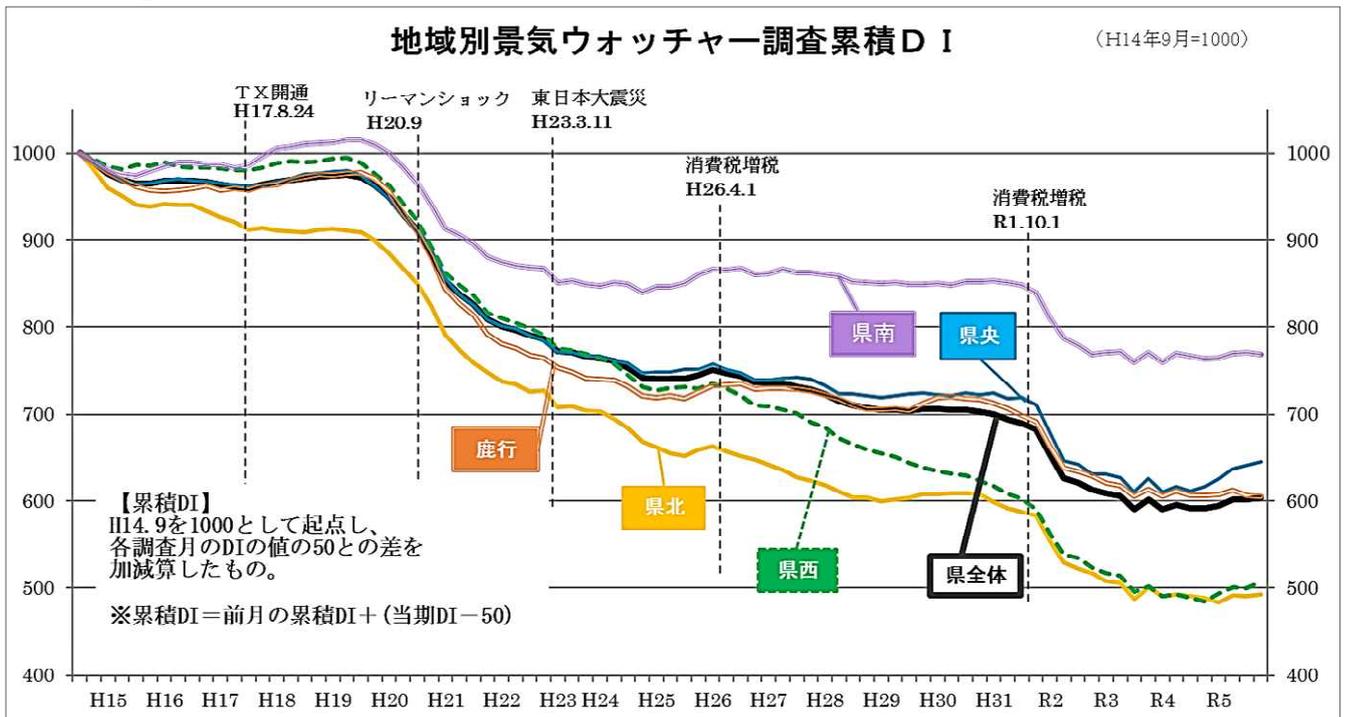
	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月
良くなっている	1.7%	5.1%	6.1%	2.0%	4.1%
やや良くなっている	25.9%	32.2%	20.4%	26.5%	24.5%
変わらない	43.1%	39.0%	55.1%	51.0%	59.2%
やや悪くなっている	24.1%	20.3%	14.3%	16.3%	10.2%
悪くなっている	5.2%	3.4%	4.1%	4.1%	2.0%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



	H30.12	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月
県全体	49.5	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5	51.6	48.6
県北	50.0	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1	50.5	44.7
県央	50.8	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1	51.6	49.0
県南	47.8	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0	54.3	42.8
県西	50.0	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6	51.5	54.6
全国	47.6 47.0	48.1 47.9	45.7 46.3	36.9 36.7	45.1 44.5	18.8 18.7	44.2 44.8	47.2 47.1	36.7 36.1	48.7 48.6	51.9 52.6	56.6 56.7	50.1 49.5	48.4 48.4	48.4 49.2	49.2 49.3	46.8 46.3	54.1 54.1	52.8 53.6	49.5 49.7	49.1(季節調整値) 48.6(原数値)

(参考) 地域別累積DI



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	ドライブイン	3か月前と比較し、売上金額129%、客数107%となった。前年度同時期比較すると、売上金額111%、客数106%となったため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	値上げ情報も11月あたりから落ち着き相場がひと段落したと、最低賃金上昇に伴い消費が少し増えているように感じるため、やや良くなっていると判断した。
		小売業(弁当・惣菜店)	各種祭事などイベント行事が行われるようになり、人も増えてきていると思うため、やや良くなっていると判断した。
		小売業(時計)	少しずつ金を使う人が多くなってきた気がするため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	新型コロナウイルスも終息し、多くの人が外出する傾向だった。出来なかった事が出来る世の中になりつつあると感じるため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	昨年は実施を控えていた企業や団体の宿泊宴会、日帰り宴会の件数が増えているため、やや良くなっていると判断した。旅行や外食等の人数が増えていることは、景気の向上に関連性があると考えられる。
		旅行会社	少しずつ動きが出てきているため、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	新型コロナウイルスが第5類感染症に移行後、回復傾向にあった客入りも落ち着いてはきたが、土日などの繁忙時期の駐車場を見ても県外ナンバーが増え秋口よりも例年に比べ客足は増加しているため、やや良くなっていると判断した。また、経理担当のため賞与支給率を確認できるが、賞与は増加しており企業としても支出に耐えうる状況にあると感じられる。だが、仕入費の単価上昇は依然として変わっておらず支出の絶対値は企業としても客としても増えている。
		ゴルフ場	物価高騰に伴う援助が追い付いていないと思われるが、それでも年末という区切りが購買意欲を高めている気がするため、やや良くなっていると判断した。
	企業	水産業関係者	コロナ禍後のインバウンドの影響が目に見える形になってきたかと思うため、やや良くなっていると判断した。
		製造業(化学工業)	顧客からの受注が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
製造業(電気機械器具)		作業量(受注量)が増えた。そのため、正社員2名の増員を計った。それで何とか取引先の納期に間に合わせている現状のため、やや良くなっていると判断した。	
製造業(精密機械器具)		支給部品の状況が安定してきたため、やや良くなっていると判断した。	
金融業		前年までの自粛ムードからは明らかに変化を感じ、緩やかながらも経済活動が回復してきている印象のため、やや良くなっていると判断した。	
雇用	学校就業関係者	取引先の意見等から、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	小売業(食料品)	人出は増えたように感じられるが、売上げは上がらないため、変わらないと判断した。
		衣料品販売店	客の様子は変わらないため、変わらないと判断した。
		自動車販売店	物価上昇やガソリンの値上げが続いているが、生活の足となっている車に対しては、特に変化を感じない。
		小売業(酒類)	大手企業はボーナス増加と聞くが、地域全般的には全ての物価高騰により手取額は増加していないと感じるため、変わらないと判断した。
		小売業(水産物)	客数や売上げ、観光客(団体客)数が伸びないため、変わらないと判断した。

変わらない	家計	レストラン	売上げにしても客の流れにしても、ほぼ3か月前と同等であるため、変わらないと判断した。前年同月よりは上がっている。
		スナック	3か月前と比較し、店に客が戻って来ないし、近隣の居酒屋も暇で困っているため、変わらないと判断した。
		日本料理店	予約が増えてきたが、インバウンドの客が戻らないため、変わらないと判断した。物価高が続き（特に野菜）、当店の売上げが低下している。
		タクシー会社	売上げがそれほど変わらないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	タクシーの売上げは運賃改定で少し上向きなものの、客の様子から見ると物価高もあり現状維持が良いところだと思われるため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	通常年末の時期は売上げが伸びやすいが、今年はその傾向が控えめに感じるため、変わらないと判断した。
		設計事務所	動きは見られずコロナ禍前と変わらないため、3か月前と状況は変わらないと判断した。
企業	林業関係者	時期的なものを抜けば変わらない。	
	製造業（電気機械器具）	3か月前と売上げ、生産計画、受注とも同等に推移しているため、変わらないと判断した。	
	製造業（その他）	物価が高止まりしている状況には変わらない。賃金も物価上昇分をカバーできるほど昇給することは考えにくく、買物を控えるなど自助努力を続けている状況にあるため、変わらないと判断した。また、ガソリン代負担が増えていることもあり、休日の外出も控える傾向にある。サービス業にも影響が出ているのではないかと。	
	建設業	見積り依頼は横ばいで、仕入等の値動きも大きな変動はないため、景気も変わっていないと判断した。	
	建設業	個人的な仕事の状況も含めて会社の経営状況に変化は見られないため、変わらないと判断した。	
	非製造業（その他）	受発注額から、変わらないと判断した。	
雇用	求人開拓員	12月に入って当所利用者が減少傾向にあり、管内企業の求人も少ない。よって変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	今月の売上げは、今のところ9月に比べて少し悪くなっている。クリスマス商戦、和牛、生寿司などの動きも鈍くなっているため、節約傾向になっていると感じているため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	最低賃金は上がったものの、物価上昇の負担が大きいので買控えが起きている印象を受ける。今までは、弁当、サラダ、飲み物を買っていた客が、弁当と飲み物だけになったりしている様子が増えてきたと感じているため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	予約件数や問合せの件数、新規やこれまでの顧客との割合、傾向を昨年、一昨年との同月比比較を踏まえて、各店舗の状況から良くて前年並み、半分以上が前年割れのため、やや悪くなっていると判断した。
		美容室	物価高による影響で財布の紐は更に固くなっているため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	量販店（スーパー等）からの発注頻度及び数量が若干下がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連において受注残が多い状況が継続している。ただ新規の受注案件が減ってきているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	仕事の受注が減っているため、やや悪くなっていると判断した。同業界では皆、同じような状況だと聞いている。
		不動産業	インボイス制度の導入により個人の事業主が廃業するなどしている。取引きがある事業主も対応に追われ、前年と比べて動きが悪い傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	求人広告	求人掲載の依頼が減少しており、10月の最低賃金上昇や物価高騰の影響を受けている様子を見聞きするため、やや悪くなっていると判断した。
		公共職業安定所	10月の最低賃金の上げ幅についていけず、苦しいようである。社員に対して労働環境の改善が望めず、かといって残業などによる人件費の負担も厳しい。一般的な生活についてはあまり物価も下がらず、スーパーなど安売りをしている所も、安売りの限界となり家計への負担は大きい。総じて、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	商店街代表者	物価高騰につき消費減退のため、悪くなっていると判断した。

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良い	家計	割烹料理店	客（特に家族連れ）が多いため、良くなっていると判断した。	
		住宅販売会社	賃貸需要土地もそうだが、企業が動き出している。原子力発電の安全対策工事が動き出し人の流れが出てきたため、賃貸及び建築需要が伸びてきたので、良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（食料品）	感染症に左右されず人出があるため、良くなっていると判断した。	
		運輸業	徐々に、顧客製品の出荷台数も増えている状況のため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	平日はあまり変わらないが、週末商店街を通る人の数が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
		小売業	消費行動が活発化し、店頭の客数も増加し買上げも増えているため、やや良くなっていると判断した。	
		小売業	3か月前と比べて、売上げや客数の前年比がやや伸びてきているので、やや良くなっていると判断した。	
		日本料理店	売上げも前年比を超えているため、やや良くなっていると判断した。	
		タクシー運転手	売上げについて、今月の前年比と3か月前（9月）の前年比を比べると、今月の前年比の伸び率が良くなっているため、景気はやや良くなっていると判断した。	
		観光名所	客単価がやや増加しているため、やや良くなっていると判断した。	
		レジャー施設	新型コロナウイルスの収束に伴い、インバウンド需要も戻ってきており、物価の高騰はあるものの、それを差し引いても、以前の水準を上回る数字も出ているため、やや良くなっていると判断した。	
		設計事務所	業務案件の引合いが増えているため、やや良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（窯業・土石製品）	11月に予定していなかった工事の受注があったため、やや良くなっていると判断した。良質の石材が採れたので原石売上げが増加した。	
		製造業（輸送用機械器具）	生産需要の増加が見られるが、特定分野における部品調達がひっ迫しているケースもあり、満足できる対応が取れない製品もあるが、全体的需要は増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。	
		製造業（精密機械器具）	1件あたりの受注金額が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
		金融業	ある地域では、昨年度の新施設のオープンに伴い、土日祝日のイベント開催時には近隣飲食店の売上げは増加傾向にある。また、新規オープン店舗も少しずつ増加していることから、開発地域を中心とした景気回復が期待できるため、やや良くなっていると判断した。	
	変わらない	家計	商店街代表者	あまり変化は感じない。
			スーパー	客数、供給の前年対比は伸長しているが、景気が良いとは感じない。構造は以前と変わらず、値上げにより単価が上昇しており、最近では客数が前年並みのため供給が伸長しているといった状況のため、変わらないと判断した。若干、風向きが変わっているのが一人当たりの利用点数が昨年並みに上昇してきている点だ。
スーパー			3か月前はファッションが苦戦していたが、食品は好調だった。当月はファッションも昨年並みの売上げで推移しており、おおよそ景気は変わらないと判断した。	
コンビニエンスストア			3か月前は暑さの影響もあったが、それを除いても客数増加が継続している状況のため、変わらないと判断した。	
酒・各種商品小売業			変わらないと判断した。3か月前も今回も、昨年と比べると景気は良くなっているのを感じる。観光バスもかなり回復したと思う。	
自動車販売店			来店者数や消費動向もあまり変わらないため、変わらないと判断した。	
農産物直売所			買上げ点数やギフト売れ筋単価が変わらないため、変わらないと判断した。	
都市型ホテル			忘年会、新年会の時期になったが、全体の予約受注は3か月前と同じくらいの伸びで大きく改善していないため、変わらないと判断した。	
観光型ホテル			予約状況が3か月前と同じように順調に推移しているため、変わらないと判断した。	
旅行代理店			単価が変わらないため、変わらないと判断した。全国レベルで見るとやや良くなっていると思うが、茨城県内においては変わらないと思う。	
バス運転手			コロナ禍の影響がほぼ払拭された一方、物価等の高騰が購買意欲の回復・向上を押さえつけてしまっているように感じるため、変わらないと判断した。	
ゴルフ場			ニーズに大きな変化はないため、変わらないと判断した。	
写真店	新規の仕事がないため、変わらないと判断した。			

変わらない	企業	農業関係者	変わらないと判断した。景気は上向きではあるが、今後も市場相場が上がれば今よりも悪くなる。
		製造業（金属製品）	客からの注文数は、3か月前とほぼ同等で推移しており、今後も大幅に増減する要素がないため、変わらないと判断した。
		運輸業（道路貨物運送業）	衣食住に関わる運送は好調を維持していると思われるが、それ以外のスポット案件の問合せが少ない。また、現在対応中の運送についての料金は段階的に交渉している状況であるため、変わらないと判断した。
		不動産業	不動産における個人の動向に大きな変化は見られないため、変わらないと判断した。
		情報通信業（情報サービス業）	賃金上昇の流れの半面、一部において予算削減要求が増えてきているため、変わらないと判断した。
雇用	学校就業関係者	コロナ禍以降、企業側の採用意欲は依然として高い傾向にあり、新卒向けの求人情報の提供も同様に多い状況となっていることから、前回の9月調査時に引き続き安定した状態にあると考えるため、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	当所利用者（求職者）が、やや減少しているが大きく減少はしていないため、変わらないと判断した。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	昼間の客数の減少により、やや悪くなっていると判断した。
		楽器販売	コロナ禍であった昨年、一昨年と比べても、客数も売上げも伸びていない。販売が低調であるため、やや悪くなっていると判断した。
		道の駅	観光客は増えたが、普段の買い物は財布の紐が固い。贅沢しなくなった。嗜好品の売上げが下がっているため、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー銭湯	競合店のオープンもあり客数が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		ボウリング場	物価高による来場者の減少及び来場者によるゲーム数の減少（2ゲームから1ゲーム）のため、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（印刷・同関連業）	資材高騰の影響がここに来て感じられるため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（一般機械器具）	自動車関連の仕事は止まってしまって動きが悪い。最近では建設機械が生産調整に入り建機生産数台数が縮小したため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（精密機械器具）	3年前からの新型コロナウイルス騒動で、中国を中心として東南アジアから部品の入手が困難になり、各企業は買いだめを行った事により在庫が増え、現在、在庫からの切り崩し中で一服感がある。同時に大手企業を中心として半導体が動いていないため、やや悪くなっていると判断した。	
	建設業	エネルギー関連を含めた物価の高騰のため、やや悪くなっていると判断した。	
雇用	求人広告	企業の求人広告予算が減っているため、やや悪くなっていると判断した。	
	公共職業安定所	この3か月における管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、マイナスとなる月が続いているため、やや悪くなっていると判断した。また、事業主都合の離職者や受給者実人員もこの3か月増加している。	
悪	家計	割烹料理店	年末年始の忘年会や新年会の予約が極端に少ないため、悪くなっていると判断した。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	企業	製造業（精密機械器具）	メインの受注が増え、その他の取引先からの見積り依頼なども活発にきているため、良くなっていると判断した。	
やや良くなっている	家計	スーパー	3か月前と比較すると、物価上昇で下落していた客数や買上げ点数が、昨年度の水準に戻りつつあるため、やや良くなっていると判断した。また、物価上昇の影響で、利益率が上がった。	
		小売業	コロナ禍が明けて数か月、今年の年末はイベントや飲み会などが急激に増えた感じがする。人が動き、お金も動いているようであり、やや良くなっていると判断した。一方で、会社経営者に話を聞くと、働き方改革が会社の成長を妨げているとよく聞く。	
		洋食食堂	客数、売上げともに増えているため、やや良くなっていると判断した。	
		日本料理店	マスコミ報道等で新型コロナウイルスに関する報道がされなくなり、客が戻ってきているため、やや良くなっていると判断した。	
		観光型ホテル	宿泊者の人数が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。	
		運転代行	忘年会等があり、他の月に比べて利用者が増えている。売上げについて、今月の前年比を3か月前の9月の前年比と比べると、今月の前年比の伸び率が良いため、景気は少しずつ良くなっていると判断した。	
	企業	製造業（金属製品）	各大手企業の商品在庫も通常に戻りつつあり、発注も少し増えたため、やや良くなっていると判断した。	
	雇用	民間職業紹介業	半導体、自動車関係が徐々に動き出した印象があるため、やや良くなっていると判断した。	
	変わらない	家計	スーパー	3か月前と比べ、客数、買上げ点数ともに変わりがないため、変わらないと判断した。
			農産物直売所	特に客数が増えているわけでもなく、客単価が増えているわけでもなく、売上げ自体も全く変わらないため、変わらないと判断した。
小売業（菓子類）			売上げの3か月前の対前年比と今月の対前年比がほとんど変わらないため、変わらないと判断した。	
小売業（薬品店）			相変わらず受診抑制が続いており高齢者患者が増えてこない、反対に小児患者が増えているが（インフルエンザ、発熱等）薬はあまり出ないので、売上げとしては増えてこないため、変わらないと判断した。	
割烹料理店			売上げが上がっても物価上昇で利益としては上がってこないため、変わらないと判断した。	
観光型ホテル			賃金も変わらず、客の入りもさほど変わらない。施設内の売店も売上げ金額がさほど変わっていないことから、変わらないと判断した。	
旅行代理店			円安で年末年始の海外旅行がないので、変わらないと判断した。	
道の駅			物価に大きな変動がないため、変わらないと判断した。	
ゴルフ場			客数は多くなってきているが、単価は物価上昇の影響を受けてか、追加メニュー等が少なく感じるため、変わらないと判断した。	
レジャー施設			人の動きは活発だが物価高等で消費が思うように伸びていない。商品の値上がりは進むものの、労働の賃上げが進まないことが影響していると思われるため、変わらないと判断した。	
クリーニング店		以前に比べると、客数は増えている気がするが売上の伸びは変わらないため、変わらないと判断した。		
住宅販売会社		特に変わりが無い。		
企業		農業関係者	物価高で農業資材は高騰しているが、農産物は今年は高温などにより収穫量が例年に比べて少なく、単価もそれほど高くない傾向であるため、変わらないと判断した。	
		製造業（食料品）	一般消費者が顧客であるため、基本的に可処分所得が増えない限りはそうは変わらないため、変わらないと判断した。	
		製造業（ゴム製品）	客先からのオーダーの状況により、変わらないと判断した。	
	製造業（鉄鋼業）	大きく変化を感じる状況ではなかったため、変わらないと判断した。		
	建設業	景気が改善されていると実感しないため、変わらないと判断した。		
	建設業	受注量や仕入れ価格に大きな差異はないため、変わらないと判断した。		
	運輸業（道路貨物運送業）	燃料高騰が痛手となっているため、変わらないと判断した。		
金融業	新型コロナウイルスの収束により個人消費を中心に回復が進んでいると感じる一方、多くの業種においては原油高騰や円安、周辺材料高騰からコスト増を強いられており、利益確保に難航がみられるため、変わらないと判断した。			

変わらない	雇用	公共職業安定所	求人者、求職者の動向に変化がなく、今後変化を生じさせるような状況も特に見られないため、変わらないと判断した。
		学校就業関係者	求人数は増加傾向にあり、求人条件も良くなっている。しかし、物価の高騰により景気が良くなっているとは思えないため、変わらないと判断した。
		求人開拓員	人出が多少増えたことにより小売業、卸売業、サービス業等一部の業種は良好なようだが、人手不足が課題となり思うような結果にはなっていない。建築、土木、運送業、介護事業者も仕事のニーズはあるが人手不足や最低賃金の上昇が課題で景気を悪くしていると感じるため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	各種燃料価格や物価の高騰により、消費者においては買控えが発生し、事業所においては人件費アップなども加わり業況に影響を与えていると思われるため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	仕事の担当店が客数・客単価の減少傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	経済的に少し余裕がある顧客も来店する回数が減ったため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	景気がまだ回復していない状態で9月に料金が値上げになった。その時点では、タクシーを利用する側も、それほど気にしていない様子だったが、実際に利用してみて控え状態の傾向となった。仕事量も減少してきた。このような状態では景気向上にはほど遠いため、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	商材の高騰で、見積り金額がアップして売価を上げざるを得ない状況が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（その他）	コロナ禍明け直後に比べて受注が減っている。対前年同月比でもここ数か月の売上げは100%を下回っているため、やや悪くなっていると判断した。
サービス業		国内の需要は前期と比較して同等ではあるが、海外絡みの案件（特に中国関係）の減少傾向が顕著なため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	家電販売店	客数の減少、嗜好商品の売上げ減少があり、客の財布の紐が固いため、悪くなっていると判断した。
		小売業（書店）	食料品等の生活必需品の値上がりのため、趣味の物への購買力が落ちていると感じているため、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良い	家計	都市型ホテル	繁忙期シーズン到来（忘年会）により多忙なため、良くなっていると判断した。
		タクシー会社	タクシーの問合せや予約が増え、今月の前年比の3倍近くになっているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業（米穀）	年末年始特有だが、ようやく忘年会、新年会の開催の予約が増えてきているようだ。ただ、コロナ禍前にまでは客数は戻っていないようだ。
		洋食レストラン	客数が増えていることが売上げの増加に繋がっているため、やや良くなっていると判断した。また、客の滞在時間が増えていることにより、食事以外に、デザートや飲み物も注文している。その結果、客単価が上がっていて自然と売上げが上がる。テイクアウトも、メイン料理の他に、単品メニューの注文も増えている。
		食堂	グループ（10名前後）の客が増えたため、やや良くなっていると判断した。
		サービスエリア	温暖化の影響か、紅葉の時期が全体的に遅れ、10月下旬から11月下旬まで観光客で盛況であったため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	平日でも予約を取りにくい状況が続いている。3か月前はこのような事はあまりなかった。この状況から、景気が良くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	業務用の商品注文が多くなっている。商品単価が高くないが個数でカバーしているので相対的に売上げが上振れ傾向。原材料や燃料費が高止まりしている。取引先から日々値上げの見積りが届いている状況。差し引くとやや上向きと思うため、やや良くなっていると判断した。
製造業（飲料）	集まる機会が増え、昨年より外食をしている話を多く耳にすることから、年末に向けて良くなっていくのではということが想定されるため、やや良くなっていると判断した。		
金融業	新型コロナウイルスの影響は着実に薄れつつあり、取引先の企業活動自体はコロナ禍前の状態に近づいているが、その度合いは業種により偏りがある。全業種的には、依然、エネルギーコスト、原材料コスト上昇の影響が続いているが、ヒト、モノ、カネの動きは活発化しており、景気はやや良くなっていると感じられる。		
変わらない	家計	スーパー	商品の値上げの部分で客数減、買上点数減をカバーしていて売上増が今のところ続いているため、変わらないと判断した。
		家電販売店	季節要因を除くと大きな変化は見られないため、変わらないと判断した。
		スーパー	値上げの影響で売上高は伸びているが、買上点数は減っている。若干の客数増より現状を保っている状態のため、変わらないと判断した。
		スーパー	変わらないと判断した。2か月前に2店舗新規で競合店がオープンするも、現状で前年供給を維持している。それでも「変わらない」と判断した根拠は、前回同様、客数及び点数は減少しており、それを値上げによる商品単価上昇に起因する客単価上昇でカバーしているためである。
		小売業	カテゴリー別では浮き沈みはあるものの、総じて売上推移は変化がないため、変わらないと判断した。
		レストラン	変わらないと判断した。コロナ禍明けの観光・外食に対しては、引き続き身近なレジャー楽しみとして定着している。
		都市型ホテル	本来、繁忙期になる12月だが、9月と比較しても売上げにあまり変化がないため、変わらないと判断した。例年に比べると状況はだいぶ悪い。しかし、人手不足もあり、オーバーワークになってしまうのも怖い部分でもあり難しい課題である。宿泊においても、3か月前と比較すると、団体件数は減少している。
		都市型ホテル	当施設においては9月調査時と同様、稼働率も良くその状態を維持することが出来たため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	売上げから、変わらないと判断した。
		テーマパーク職員	季節要因を除いて特段変化が見られないため、変わらないと判断した。
		ボウリング場	客の流れに変化がなく、良い話も特に聞いていないため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	売上等に変化が見られないため、変わらないと判断した。
		設計事務所	弊社HPやSNSからの問合せは以前と同数か若干増えている状況のため、変わらないと判断した。

変わらない	企業	農業関係者	12月期（初旬まで）の客数・客単価を今年9月期と比較すると両者とも若干の減少傾向。これは毎年の傾向である。前年同期と比較するとほぼ変わりはないため、変わらないと判断した。
		製造業（印刷・同関連業）	地域全般的にコロナ禍を脱したように見え、各種団体の行事、イベントが本来の形で行われるようになってきた。それに伴う印刷物の発注も回復してきた。一方で民間企業や商店では、コロナ禍を期にやめてしまった広告などが復活せず、そのままやめてしまったものもあるため、変わらないと判断した。今後は国や県の経済対策によるコロナ禍前を上回る景気上昇を期待する。
		製造業（窯業・土石製品）	食料品、消耗品、燃料費に大きな変動がないため、変わらないと判断した。
		製造業（非鉄金属）	メインの取引先からの受注に変化はないため、変わらないと判断した。
		製造業（その他）	半導体や部品調達などで稼働が難しい中、ありがたいことに親会社から変わりにくく見積もりや発注があるため、変わらないと判断した。
		建設業	資材不足納入の遅れ、単価値上げ等もあるも、景気は変わっていないように思うため、変わらないと判断した。
		不動産業	不動産需要について県南での需要は引き続き高いものの、賃貸・売買ともに物件が不足している。結果、単価の向上と成約数の減少で需給バランスが維持されているため、変わらないと判断した。
雇用	求人広告	人件費増加に伴い採用欲が少なく感じるため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	学校で受け付けている求人職種を見るとIT系求人が減少し、製造業求人が増加しているが、求人数の増加率は昨年同様であるため、景気は変わらないと判断した。	
	求人開拓員	3か月前と状況は変わらないと判断した。企業を訪問し人員の状況を窺っているが、どの業種業態も不足していて対策について聞かれるが、給与を上げたくても上げられない、物価が上がって賃金が追いつけないとのことだ。中小企業の場合、価格を転化出来ず人件費を上げられなくて困っているとのことだ。	
やや悪くなっている	家計	農産物直売所	直売所は、年金受給者の客が多い。物価高が止まらないせいか、買控えが止まらないように思われる。売上げも客数も伸び悩んでいるため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（生花店）	個人消費が伸びていないため、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	3か月前に比べ客数が減っている。
	企業	農業関係者	生活物資、食品類においての値上げが顕著に表れていると感じられ、買控えが以前より増していると思われるため、やや悪くなっていると判断した。農産物の価格転嫁も思うように進まず、生産資材の高騰のあおりを受け、所得が減少していると思われる。
製造業（食料品）		客数が減っているため、やや悪くなっていると判断した。	
製造業（窯業・土石製品）		取引先（土木建設業）では材料が上がり、苦慮しているのこともよく聞く。また、今年の猛暑の影響で夏の期間の作業が遅れ、結果として工期完了が後ろにずれこんでいるなど遅れが生じており、トータルでは仕事量が落ちている印象のため、やや悪くなっていると判断した。大手ほど熱中症対策をしっかりとっていたため影響が顕著と聞く。人材不足の中、これから遅れ分が取り戻せるか不明である。	
運輸業（倉庫業）		9月は貨物の動きはよかったが12月は季節的要因もあり、一部の荷主の入出庫数量が減っているため、やや悪くなっていると判断した。	
雇用	民間職業紹介業	取引先の景気低迷、減産のため、やや悪くなっていると判断した。	
悪い	家計	コンビニエンスストア	物価上昇による買控えの流れが強く出続けているため、悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	来店数も日々減っている。客単価も低いため、悪くなっていると判断した。
		理・美容店	物価上昇に伴い施術料金の値上げをしたため、悪くなっていると判断した。
		理・美容店	客が金に対してすごくシビアなため、悪くなっていると判断した。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良い	家計	和食レストラン	インフルエンザウイルスは流行しているが、新型コロナウイルスが第5類感染症に移行したことで特にランチの客が増えている。宴会の予約キャンセルがなくなった。マスクをしている客が減った。役所等の人々が宴会をやるようになった。総じて、良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	良くなっていると判断した。運賃値上げの効果が出ているのではないかと思うが、運転手不足のため思うようには効果が表れない部分もある。
やや良くなっている	家計	都市型ホテル	客の動きが活発になったため、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	コロナ禍、インフルエンザウイルスの影響はまだあるが、国内旅行需要の回復はあるため、やや良くなっていると判断した。ただし、円安の影響で海外旅行は相変わらず低調だ。
		タクシー運転手	駅から乗車する会社員の数が増えたため、やや良くなっていると判断した。
		商店街代表者	飲食店では宴会の予約増加、視察研修参加者や親睦旅行への参加者増加など、「集まる」「出かける」人の増加が窺える。建設工業製造業関係は、原材料高騰やガソリン代の高騰による経費増加により、やや良くなっている程度に感じる。感染症流行期に比べれば、なだらかではあるが良い方向へ向かっているため、やや良くなっていると判断した。
		設計事務所	周囲で仕事の話が多くなって受けられない状況が発生しているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	令和5年産の米価が上昇し生産者の収入が増えたため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注が好調のため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（その他）	受注量が予算比102%であるため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	防衛品の発注企業から追加発注があったため、やや良くなっていると判断した。防衛費増額の影響かもしれない。
		不動産業	事業用店舗、事務所の需要が増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。
サービス業（コンサルタント業）	忘年会のシーズンに入ったからか、飲食店が少し活気が出てきたような気がするため、やや良くなっていると判断した。		
変わらない	家計	商店街代表者	特に客数が増えていないため、変わらないと判断した。外出する人は増えているように感じる。
		商店街代表者	一品単価は上がっても、買控えがあり店の売上げはあがらないため、変わらないと判断した。
		スーパー	物価上昇から客単価は上昇するも、買上点数が減った。物価上昇を買上点数で調整し買控えが続いているため、変わらないと判断した。
		衣料品販売店	季節要因以外の売上げがないため、変わらないと判断した。
		家電販売店	ボーナス支給後の購買状況が3か月前と比べてあまり変わらない。貯蓄に回っているように感じるため、変わらないと判断した。
		自動車販売店	半導体の生産が増え物量は増したが、燃料や食品など全ての品目で物価が上昇しているため景気が良いとは思えず、変わらないと判断した。
		農産物直売所	3か月前と変わらないと判断した。物価上昇や電気代等の値上げが引き続けている。
		レストラン	人の流れが良くなっているような感じがしないため、変わらないと判断した。
		日本料理店	コロナ禍以前の景気に戻る気配がないため、変わらないと判断した。
		道の駅	行楽需要が伸び、観光地での予算に回ってしまうため、変わらないと判断した。
		道の駅	特段、良くも悪くも景気や客足が回復してる様子は感じられないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	客数に変化がなく、景気の変化を感じないため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	業務上及び来客の動向に大きな変化が見られないため、変わらないと判断した。
		レジャー施設	買物客の単価があまり上がらないため、変わらないと判断した。
		理・美容店	特に変化の様子は見られないため、変わらないと判断した。職場の退職による人手不足で忙しいということはよく聞くし、その割には収入が増えないことが要因かもしれない。
クリーニング店	昨年対比では変わらないと判断した。また業界紙では伸び悩みとの記事がある。		
設計事務所	事業主は計画を持っているが実行に移していないため、変わらないと判断した。		

変わらない	企業	製造業（食料品）	良くなる要素がないため、変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	材料や仕入部品、副資材等の高騰、高止まりが依然として続いており、人件費の上昇もあり変わらないと判断した。
		製造業（電気機械器具）	9月調査以降も勤務変更や人員増減の要望が落ち着いているため、変わらないと判断した。
		製造業（印刷・同関連業）	最低賃金の上昇に伴う価格の上昇、生産性の向上がないため、変わらないと判断した。採算が悪化している。
		製造業（金属製品）	一部取引先からの受注は増えてきているが、その他の取引先からの受注が減ったため、トータルすると変わらないと判断した。
		製造業（化学工業）	半導体関係を中心に受注に回復の兆しが見られない。サプライチェーン各所での在庫は縮減が進んできてはいるものの、需要自体が高まってきていないので景気としては低調期を脱していないと考えているため、変わらないと判断した。
		建設業	特に変化を感じないため、変わらないと判断した。
		金融業	仕入価格の上昇は続いており、一部販売単価に切替えているが収支状況に変化は見られないため、変わらないと判断した。
雇用	学校就業関係者	求人における初任給は上がっているが、中小企業の給与水準は上昇しておらず、円安の影響もあり良くなっている感覚はないように思うため、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	3か月前の状況と比較し変わらないと判断した。面接会を実施した際、昨年より多くの企業から申込みがあり来場者も多く内定者も出た。製造業と建設・運輸、医療福祉関係の不足が継続している。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	12月に入り人流は弱まっており、店舗の売上げは前年を超えてはいるものの、9月時点の売上前年比と比較し鈍化傾向にある。また、店舗の利益率に関しては、最低賃金の上昇や諸経費の高騰もあり、減少傾向にあるため、直近の景気はやや悪くなっているのではと感じている。
		製茶販売	9月が一番悪いのかと思っていたが、更に財布の紐が固くなり、皆、必要なもの以外を買わなくなったため、やや悪くなっていると判断した。生活に余裕を感じる事が出来ない。コロナが落ち着いてイベント等賑わっているが、そこで買物をする人は稀だ。
	企業	農業関係者	管内の畑作地域においては、秋から冬にかけて主力である葉物野菜（レタス・キャベツ・白菜等）の出荷最盛期を迎えているが、例年と比較し、平均単価を大幅に下回っており、かつ、世界情勢や為替相場の変動により出荷経費が上がっていることから、生産者の所得の減少が想定されるため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注数が減少している中、原材料や光熱費の高騰があるため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	人材派遣業	年末の季節繁忙が例年より穏やかな企業が多いため（特にギフト系、食品系の企業）、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	観光型ホテル	9月以降順調に推移してきた売上げが、12月に更にと期待したが以前の悪い状態に戻ってしまい、前年度の12月と何ら変わらない数字になっていたため、悪くなっていると判断した。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 東北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	スーパー	節約志向はより高まると思うが、消費自体は増えると思われるため、やや良くなっていると判断する。外食需要が高まってきたものの価格が依然として高いため、小売に流れると思われる。
		小売業（弁当・惣菜店）	人流の復活で景気はやや良くなってきていると判断する。ただ、コロナ禍で作られた習慣は変わらないこともあり、以前同様になるにはまだまだであると感じる。
		小売業（時計）	新型コロナウイルス・インフルエンザウイルスが落ち着けばと、期待も込めてやや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	昨年は実施を控えていた企業や団体の歓送迎会等の申込みが増えることが予想されるため、やや良くなっていると判断する。
	企業	水産業関係者	悪くなりそうな要因の雰囲気になさそうに思うため、やや良くなっていると判断する。
製造業（化学工業）		新規案件等が増える傾向にあるため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	商店街代表者	将来への不安から消費に動かない雰囲気を感じるため、変わらないと判断する。
		小売業（食料品）	TV等で値上げの話をしており、買控えがあるのではないかと思うため、変わらないと判断する。
		衣料品販売店	10万円給付などのように、変わる要素が見えないため、変わらないと判断する。
		小売業（酒類）	ライフラインはもとより、生活関連品物の物価高騰による影響は避けられないため良くなると思えないので、変わらないと判断する。
		小売業（水産物）	物価高騰を強く感じるため、変わらないと判断する。
		レストラン	様々な商品の値上げも一段落の傾向が見られるため、次の値上げラッシュまではこのままでいくと予想しているため、変わらないと判断する。
		スナック	皆、金を使うのが怖くなってきていると思うため、変わらないと判断する。
		日本料理店	忘年会や夜の会合が増えてきた。10月から最低賃金が上がったが、あまり景気に反映していないようである。物価・野菜等が落ち着いてきた。政治の不安定で先が読めない。
		観光型ホテル	3か月先も変わらないと判断する。現在もある問題だが、原材料費、備品に至る全ての価格高騰が不安だ。
		タクシー会社	変化があまりないため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	客の様子から、趣味や旅行などに使える金までは余裕がないという客が大半を占めているため、変わらないと判断する。今後の政府の景気対策が必要だ。
		ドライブイン	更に良くなるというわけにもいかないと予想されるため、変わらないと判断する。物価は上がるばかり、下がったと聞くものがない。
		レジャー施設	回復傾向にあった客入りは落ち着いてきた。また、一例としてミクロ的な事象だが燃料費が高騰しており、直結するライフラインも高騰しているため企業としてはまだ許容範囲となっているが、客を見ていると園内周回道路を走らず無料バスや徒歩移動の人が増えている。その他にも景気下降の要因はあれど上昇の要因は少なく感じるため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	変わるきっかけになるような出来事がないため、変わらないと判断する。
	美容室	3か月先も変わらないと判断する。税金やら物価高の影響で、更に財布の紐は固くなるだろう。	
	企業	製造業（電気機械器具）	現状のままとは思わないが、あまり変わらないと判断する。取引先からの受注量が多くはないが、工程上からも少なくなることはないかと思う。
		製造業（精密機械器具）	受注状況が変わらない。
		製造業（精密機械器具）	取引会社でも受注が増える兆しが見えないとの話があるため、変わらないと判断する。
		建設業	取引先等の話では、先行き不透明感が強いとのことから、景気はさほど変化しないと思う。
		建設業	1年以上の期間を設けてのプロジェクトなので、当分変化は見られないと思うため、変わらないと判断する。
金融業		物価高騰の中、個人消費については、依然として鈍い動きにて推移するものと思われるため、変わらないと判断する。	
非製造業（その他）		受発注額は多くなりそうだが、対応できるリソースがないため、変わらないと判断する。	
雇用	求人広告	現在は厳しくとも、先々に募集の予定があるなどの話があれば異なるが、なかなか先行きも不透明な印象があるため、変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	取引先の意見等から、変わらないと判断する。	
	求人開拓員	今後3か月来所者増、企業の求人増加はあまり見込めないため、変わらないと判断する。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	原料の高騰や色々な物が値上がり、企業としても利益を出すことが難しくなってきたので、今後も景気は良くはならないと思うため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	物価上昇が続く中で、継続的に緩やかに景況感は悪化すると思う。最低賃金が上がったことだけでなく、今までは、比較的影響が少なかった経営者まで、経費圧迫により、厳しい体制になると思うため、やや悪くなっていると判断する。
		自動車販売店	新型コロナウイルス発生から3年が経ち、その時期に販売した車が車検を迎えるが、販売減により整備在庫台数減など影響が出てくると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	経済の冷え込みが予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		写真店	引き続きの物価高傾向が変わらない状況では、必要最小限の消費以外にはなかなか予算が割り振られないと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	林業関係者	景気が上向く気配が感じられないため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（食料品）	今の円安傾向に伴い原材料及び資材関係の値上げが3月から4月にあるだろうという話が出ているので、来年春から再値上げのラッシュがあると予想されるため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（電気機械器具）	生産計画が第4クォーターで少々落ち込む計画であるため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	製造業（その他）	物価の低下は見込めない。一度上がった物価はなかなか値下げとはならないと考えているため、やや悪くなっていると判断する。物価高疲れも長くなれば長くなるほど増していく。益々購買意欲が落ちるのではないかと。
		公共職業安定所	賃金は一時期最低賃金の関係で上げてきたが、ここに来て頭打ちをしている。就業希望者が少なく、事業所としてもこれ以上の伸びが期待できていない。また、高齢者の失業率が高まり、就業先もなく、生活への不安は今後続いていきそうである。また、労働人口が県北より流出しており、労働者も景気の良い会社に偏り、全体としてみれば賃金の底上げにはなっていない。廃業や事業の縮小を考えている事業所も多いため、やや悪くなっていると判断する。
悪い	企業	製造業（電気機械器具）	液晶・半導体製造装置関連において、受注残が多いが新規の受注案件が減ってきている状況が当面続き、受注残が減る見込みのため、悪くなっていると判断した。
		不動産業	物価の上昇に比べて賃金の上昇が追いついておらず、生活は苦しくなっている。大幅な減税等により実質賃金の上昇がなされなければ、景気は悪くなっていくと思う。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	住宅販売会社	2024年は住宅助成金が手厚く出てくるため、需要は高まり景気は良くなると思われる。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	周囲に飲食店が多く立地しているが、週末は予約しないと入れない店が増えてきているため、やや良くなっていると判断する。
		スーパー	市で発行するプレミアム商品券が使用開始となる予定なので、購買意識が上がっていると推測するため、やや良くなっていると判断する。
		小売業	売上げや客数の前年比がやや伸びてきている状況がしばらく続きそうな感じであるため、3か月先はやや良くなっていると判断する。
		日本料理店	特別な事をするため売上げが伸びる可能性があるため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	このまま景気回復の願いを込めて、やや良くなっていると判断する。
		設計事務所	インフレとともに、ひと昔前と違い、賃金改定の話も以前より当たり前のように感じられるため、やや良くなっていると判断する。
		企業	製造業（窯業・土石製品）
	製造業（金属製品）		自動車産業の国内情勢は堅調に推移しているものの、海外は電動化の影響で一部の客から減産情報が入っている。反面、他の客のEV向け部品が好調で、全体的な売上げは予定通りとなる見込みのため、やや良くなっていると判断する。これに加え、半導体製作装置向けの部品製作ユーザー向け製品で2024年春から20%増産が確定、その他ユーザーからもEV部品での増産情報が入っており、来年度は売上げの上積みも期待できる。
	製造業（精密機械器具）		今は半導体が悪いと言っているが、今が底だということを世間が言っているため、やや良くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	給与アップの話が聞かれる。各社の業績が良いと思われるため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	商店街代表者	新型コロナウイルスの終息に伴って以前のような日常に戻ったが、物価高が大きくマイナスとなって、いまひとつ波に乗れない感じがあるため、変わらないと判断する。
		小売業	物価高の影響で買い方は慎重になっている。政府の政策等先行きが不透明なため、現状と同等の水準であると想定するため、変わらないと判断する。
		スーパー	この間の状況を見ると、昨年ベースの客数を確保でき、客単価上昇に伴い供給高伸長といった流れになると感じるため、景気状況は変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	現状からのプラス要因を感じないため、変わらないと判断する。
		コンビニエンスストア	来年5月（新型コロナウイルスの第5類感染症移行から1年経過）までは同様な流れが続くと考えているため、変わらないと判断する。
		自動車販売店	客の動向、消費動向もほぼ変化はないと見ているため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	一定数の客の買上げ行動は以前と変わらないため、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	予約推移から例年並みと思われるため、変わらないと判断する。
		旅行代理店	変わらないと判断するが、「分からない」が正直な感想だ。
		道の駅	減税で一時的に消費が増える可能性もあるが、将来への不安が多い現状、貯金に回るのではないかと。明るいニュースがないため、変わらないと判断する。
		観光名所	3か月先の予約から見て、今月とあまり変わらないと思う。
		レジャー施設	今後更に上向き社会情勢の機運は見られず、現状のまま推移していくことが予想されるため、変わらないと判断する。
		スーパー銭湯	変わらないと判断する。人手不足や、物不足なのは変わらないが、やや改善傾向にある。
		ゴルフ場	上向き要因が見当たらないため、変わらないと判断する。
	ボウリング場	来場者の増加が現在見込めないため、変わらないと判断する。	
	理・美容店	来客が3か月周期なため、変わらないと判断する。	
	写真店	新規の仕事がない現状とほぼ同じであるため、変わらないと判断する。	
企業	農業関係者	現状を保っていると思うため、変わらないと判断する。3か月何があるかわからない。	
	製造業（輸送用機械器具）	混迷している国際情勢、中国市場の減速もあり急激な増加は見込めないため、変わらないと判断する。	
	運輸業	徐々に、顧客製品の出荷台数も増えているが、現状と比較しそれほど変動しないため、変わらないと判断する。	
	運輸業（道路貨物運送業）	時間外労働の上限規制を間近に控えて、ドライバー不足が深刻化となるため、対応しきれなくなった運送案件が出回ると思われる。案件を取り入れられる事業者は景気が良くなったと思われがちであるが、業界全体で考えると決してそうは思えないため、変わらないと判断する。	

変わらない	企業	金融業	飲食・小売関連では、集客力のある地区では景気好転が見込まれるが、郊外店舗の業績回復は何かしらのブランディングの確立をしなければ対抗できない。不動産・建設業界においても開発土地の減少から業績は横ばいであるものと思慮され、総体的に変わらない。
		情報通信業（情報サービス業）	予算削減要求は下げ止まると思うため、変わらないと判断する。
	雇用	公共職業安定所	直近3か月は管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、マイナスとなる月が続いている傾向ではあるが、求人数は新規求人数・有効求人数ともに極端な減少はなく、事業所からは引き続き人手不足が継続しているとの声を多く聞くため、変わらないと判断する。
		学校就業関係者	大学生の採用については、企業の採用意欲も高い傾向にあるが、数か月での影響はないと思われるため、変わらないと判断する。
求人開拓員		当所利用者の減少とともに、求人数が若干増加傾向にあるが、ものすごく増えているという感じではないため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	酒・各種商品小売業	コロナ禍から忘年会は明らかに減っている。コロナ禍前は11月下旬から会社関係の忘年会が民宿、旅館で週末は賑わっていたが、それは5分の1くらいに減っていると思うし、新年会も同様と思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		楽器販売	周りの方々の話やSNSでも、旅行に行ってきた話題で持ちきり。財布が観光に取られていると強く感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在の予約状況では現時点より更に少なく、今後の伸びに期待しているが、少し悪くしてしまう予想である。
		バス運転手	物価高騰に収入増が追い付いていない中で、冬になると電気・ガス等の光熱費負担が増えることから、他の部分への支出は相対的に減ってしまうのではないかと思うため、やや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	9月のタクシー運賃改定により客数が減少傾向にあり、3か月先も、この傾向は続くと思われるので、景気はやや悪くなると判断する。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	現状の仕事量を考えると、この先は不安なため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（一般機械器具）	自動車と建設機械が止まっているので仕事量は減少傾向であるため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（精密機械器具）	12月、1月、2月にかけて作業日数が少ないため、やや悪くなっていると判断する。特に1月は工数が少ないので生産が上がらない。
		建設業	労働者の賃金上昇が物価の高騰に追いつかないため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	物価高、資源高の影響で、設備投資などの気運が控えめになりそういため、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	物価上昇が止まらない。価格転嫁出来ているうちはいいが、マーケット上売値のアップは決まってい限界が見えてくるため、やや悪くなっていると判断する。
悪	家計	割烹料理店	びっくりするぐらい最近では客足が悪すぎるので、この先良くなるイメージが湧かないため、悪くなっていると判断する。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（精密機械器具）	11月に取引先が3倍の広さになり、3倍の発注をかけるので準備するようと言われているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	スーパー	物価上昇に対して、ディスカウントストアは有利な状況にある。物価上昇は、まだしばらくは続くと思われるため、3か月先はやや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	コロナ禍も明け、年末年始も移動ができるようになり旅行需要も増えているため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（菓子類）	賃上げなどの効果で可処分所得が増えると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		洋食食堂	新型コロナウイルスの話題も少なくなり、飲食の機会は多くなると思うため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	宿泊予約人数が増えてきているため、やや良くなっていると判断する。
	企業	農業関係者	最近、為替の影響による円安の進行が落ち着いてきており、今後、金利の状況により円高傾向に傾いてくると思われる。物価高も落ち着いてくるものと思われ、農業資材の価格もやや落ち着いてくるものと予想されるため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（金属製品）	自動車関連は、CO2排出車に発注の大幅な減少があった。EV車は発注が増え、日本での登録台数では全体を100とした場合、10%に迫っている（中国では40%に迫るようだ）ため、やや良くなっていると判断する。エンジン部品のメーカーは今後は変化がないと思う。
		建設業	3月決算の企業は、駆け込み需要でやや活気付くと思うため、やや良くなっていると判断する。
		建設業	今後は設備投資による受注案件が増える予想のため、やや良くなっていると判断する。
	変わらない	家計	商店街代表者
スーパー			値上げによる単価上昇と、客数・買上げ点数の伸び悩みというせめぎあいは今後も続くと思われるため、変わらないと判断する。
家電販売店			必需品以外の売上げしか伸びる要素がないため、変わらないと判断する。
農産物直売所			日本人に購買力や購買意欲が感じられないため、変わらないと判断する。インバウンドが戻ってきていると聞いているが、この地域には関係ない。
農産物直売所			ガソリン等の物価上昇により、変わらないと判断する。
小売業（薬品店）			これから冬場となり風邪や発熱等の患者が増えてくると思うが、慢性疾患患者が増えてこないと思われ、景気は良くなるため、変わらないと判断する。
割烹料理店			多人数の予約は入るようになったが、客の予算は上がらず厳しいため、変わらないと判断する。
日本料理店			増税など、先行きが良い話が聞こえてこないため、変わらないと判断する。
観光型ホテル			物価上昇が止まらない限りは変わると思わないため、変わらないと判断する。国のトップが変わらないと日本は何も変わらない。
旅行代理店			旅行業界は1月～3月までは客の動きがないため、変わらないと判断する。
道の駅			賃上げ政策などがまだ具体的に見えないため、景気が回復する見込みは感じないため、変わらないと判断する。
ゴルフ場			今後も物価高の影響は続き、生活を圧迫し、レジャーにかかる金は積極的には回らないような気がするため、変わらないと判断する。
レジャー施設			値上げが少しずつ収まってきているが、労働の賃上げが進まず、消費は停滞すると思われる。1月から3月にかけて行事が多くなるが、景気は変わらないと思う。
クリーニング店			以前に比べると、客数は増えている気がするが売上げは変わらないため、3か月先も変わらないと判断する。
住宅販売会社			部材が値下がりする要因はないため、変わらないと判断する。
住宅販売会社			変わる要因がない。
企業			製造業（食料品）
	製造業（ゴム製品）	3か月先の発注書から、変わらないと判断する。	
	運輸業（道路貨物運送業）	変わらないと判断する。2024年問題があるため、色々と体制が変わると思われる。	
	金融業	経済諸要因から各種コスト増の影響を受けており、各社利益確保が難航している状況。販売単価引上げのほか、人材確保に苦慮しており、景況感の回復には時間を要することが予想されるため、変わらないと判断する。	

変わらない	企業	不動産業	変わらないと判断する。金利上昇があるような気がする。また、来年2月1日にあるメーカーの冷凍食品が2~8%、状況によってもう少し上がるような事が新聞に載っていたが、その他色々な面でまた値上がりがあるのだろうか。
		サービス業	海外情勢は不安定な状態のままであり、今後急激に回復する可能性は少ないと想定するため、変わらないと判断する。
	雇用	民間職業紹介業	大手企業の問題もあり様子見の状態であるため、変わらないと判断する。
		公共職業安定所	求人者、求職者の動向に変化がなく、今後変化を生じさせるような状況も特に見られないため、変わらないと判断する。
学校就業関係者		一部の輸出中心の企業や観光業等は景気の良い話を聞いているが、物価高騰に賃金の上昇が追い付いていないと思われるため、変わらないと判断する。	
		求人開拓員	鹿行地区は景気を押し上げるほどの業種、事業者が少なく、物価高、人件費の上昇等を勘案すると大きな変化は無いものと推測するため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	衣料品販売店	物価が上昇している。かといってサラリーマンの給料が上がっているわけではなく、個人事業主など小さい会社も売上げが厳しい様子（給料を上げられる状況じゃない）のため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業	2024年問題が発生すると経済全てに良くない影響を与えると思うため、やや悪くなっていると判断する。
		運転代行	3か月先の発注書から、売上げは期待出来ない傾向にあると思うため、景気はやや悪くなっていると判断する。
		タクシー運転手	やや悪くなっていると判断する。客あつての仕事。タクシー業界が地団駄踏んだところで、埒が明かない。景気が悪くなれば、財布の紐が固くなり、金が流通しない。値上げも仕方ないが、世界的に戦争等も含めて、人間同士仲良くして住み良い国作りをしていかなければ景気回復はない。
企業	製造業（その他）	弊社は建築金物の製造をしているが、世の中の物価高で住宅の購入やリフォームのニーズが弱まっているのではないかと思うため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（鉄鋼業）	経営環境が悪くなると想定しているため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	小売業（書店）	やはり生活をする上で必要な物への値上げが売上げ減少に繋がると感じている。ガソリンの値上がりで夜の客がすごく減少したと感じているため、やや悪くなっていると判断する。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良い	家計	洋食レストラン	良くなっていると思う。リピート率を上げるようにポイントカードに得点をつけて、また来るような楽しみを組み込んでいる。従業員にも、客の居心地が良い店を作るため空気を読める接客を教えている。食事が美味しくても、スタッフが感じの悪い接客をしたら次回は来店してくれない。当店は接客を大事に運営している。その結果が今の状況だ。3か月先は良くなると考えている。
		食堂	新型コロナウイルスが第5類感染症に移行してから、週末の客（特に県外）が多くなっているため、良くなっていると判断する。
やや良い	家計	都市型ホテル	コロナ禍が明けた反動もあり、新年会、歓送迎会、婚礼も増加傾向にある。
	企業	運輸業（倉庫業）	2月より新規案件の提案があったり、荷主によっては倉庫スペースを増やしていきたいとの話もあるため、やや良くなっていると判断する。
金融業		物価上昇への対抗策や企業努力が各企業に見られ、取引先の事業者の活動は確実に活発化しているように感じられる。取引先からも、電気代やガソリン価格も政府の支援策により以前よりも負担感が少なくなっているという声も聞こえ、3ヶ月先は更に事業活動の活性化が見込めると思われ、景気はやや良くなっていると予想する。	
変わらない	家計	家電販売店	今後3か月間で景気が良くなりそうな要因は見当たらないため、変わらないと判断する。
		スーパー	良くなる要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	物価高は今後も続くと思われ、3か月先の状況は現在の状況と変わらないと判断する。
		小売業	アパレルは気温の上昇やネットの台頭で苦戦が続くと思われる。一方、旅行関連・冠婚葬祭は2桁伸長が続いており、今後もこの流れは続くと思われるため、変わらないと判断する。サービス・アミューズメント・飲食などの体験型消費は今後も好調にシフトしていくと思われる。
		小売業（米穀）	年末年始は動くと思うが、それ以外はまだまだ厳しいと感じている。
		レストラン	世界情勢についてはオーバーだが、円安賃金等の不安定要素もありマインドの上向き感じではないため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	年末年始でどうなるか分からないが、あまり期待できないため、変わらないと判断する。
		サービスエリア	冬場は閑散期であり、今月と比較して良くなるかどうかは不明だが、前年と比較して観光目的とみられるバス、学生の利用が平日休日問わず見られるため、一定の利用は確保できると考えられるため、現状と変わらないと判断する。
		ゴルフ場	今の状況が1月後半まで続くとは思えないが、現在の来年の予約状況も良いので、おそらく変わらないかと思われ、予約が取りにくい状況ではない。
		テーマパーク職員	今後3か月間、大きく変わる要因が見受けられないため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	変わると判断できるような要因がないため、変わらないと判断する。
		設計事務所	弊社HPやSNSからの問合せが決定に結びついていけば、今までどおりと思われるため変わらないと判断する。
		企業	農業関係者
製造業（飲料）	ガソリンの値段や日常で買う商品も値上げするものが見受けられることから、3か月先も節約する動きは変わらないと想定するため、変わらないと判断する。		
製造業（印刷・同関連業）	地域全般的にコロナ禍を脱したように見え、各種団体の行事、イベントが本来の形で行われるようになってきたという好材料以外に、ネガティブな材料も沢山あるように思う。円安による仕入れコスト、光熱費の高止まり、戦争が経済へ与える悪影響も不安である。賃上げの動きも中小事業者にとっては両刃の剣。総じて、変わらないと判断する。		
製造業（窯業・土石製品）	客の仕事量の回復が進めば、あまり変化はないのではないかと考えているため、変わらないと判断する。		
製造業（その他）	この先も親会社から見積もり発注があるので、良くなっていくことはあっても悪くはならないと思うため、変わらないと判断する。		
建設業	資材不足と共にこれからは単価値上げ、品不足等により仕事がつぶらくなるようだ。景気は変わらないと予想する。		
不動産業	不動産需要について県南での需要は引き続き高いものの、賃貸・売買ともに物件が不足している。結果、単価の向上と成約数の減少で需給バランスが維持されているため、3か月先も変わらないと判断する。		
雇用	求人広告	今後の採用の予定を聞いていても現状維持との回答が多い。また現状、変わる要因が見当たらないため、変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	求人数や内定状況が昨年と大きな変化がないことから、今後の景気も大きく変わらないと判断する。	
	求人開拓員	先の3か月に関しては、そのまま続くのではないかと思うため変わらないと判断する。経済は原料関連と為替に連動していて、急な変動はないのではないかと訪問先の客も思っているようだ。	

やや悪くなっている	家計	スーパー	3か月後、商品値上げのメリットは縮小していくと予想される（去年の3月から売上増になった）ため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	政府が物価上昇に対する対策を打つ気配も無いので、徐々に買疲れによる消費低迷の流れになると予測するため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（生花店）	円安、原材料価格の上昇により100%の価格転嫁が困難であり、利益の減少、物価上昇による個人消費意欲の減退、社会不安がある。販売・卸業については良くなる要素が見当たらないため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	現在の予定では予約の伸び率が悪く、景気はやや悪くなっていると予想する。客単価を上げる努力はしたいが、施設も古く立地条件も他ホテル（ビジネスタイプ）に比べると悪い。研修や宴会付の団体を獲得し、他ホテルにはない当社の強みを生かしたいので、目標を持って営業を強化したいと考えている。
		都市型ホテル	いつの時代でも良い時ばかり長続きしない。客足が落ち着いてくればやはり徐々に悪くなっていくものだ。そしてまた客足が慌ただしくなれば景気も良くなり、結局はその繰り返しなのだろうと思うため、やや悪くなっていると判断する。
		ボウリング場	ガソリンの価格がまた徐々に上がり始めているので、各方面での値上げが起りそうなるため、やや悪くなっていると判断する。
		住宅販売会社	物価高の影響に賃金アップが今後も追いついていかないと感じるため、やや悪くなっていると判断する。
企業	製造業（食料品）	原材料価格や燃料費は上昇傾向。1月～3月までは注文は多くないので粗利は減少すると予想する。委託製品があり、ある程度の売上げは確保できるが経費単価が上がると予想するので、やや悪くなると考える。	
	製造業（食料品）	物価高騰により購買意欲がなくなるため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（窯業・土石製品）	漠然とした回答になるが、弊社は業務の1つに公共事業への資材供給があるが、公共事業の発注が減少しているイメージがあるため、やや悪くなっていると判断する。	
	製造業（非鉄金属）	円高疲れが表面化し、国内消費が落ち込む。海外の景気のピークも過ぎているため、やや悪くなっていると判断する。	
雇用	民間職業紹介業	企業の景気が良くなるような材料が薄いため、やや悪くなっていると判断する。	
悪い	家計	コンビニエンスストア	あと3か月くらいではこの物価上昇の流れは変わらないと思うため、悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	必要な物は購入するが今すぐ必要でない物は見るだけで購入しないため、悪くなっていると判断する。
		理・美容店	悪くなっていると予想するが、正直分らない。
		理・美容店	政治に対しての不安しかないため、悪くなっていると判断する。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業	色々なイベントが増えているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	家電販売店	客の中には住まいを新築購入している人や、リフォームを検討するとの話をする人が一定数いるので、物価高が一段落すると考える人が増えているように思うので、やや良くなっていると判断する。もしくは、物価高に慣れてきている人がいるのではないか。
		食堂	多くの人が、遊び、旅行するなど動きが活発になってきたため、やや良くなっていると判断する。
		和食レストラン	やや良くなっていると判断する。新型コロナウイルスに対して意識は少なくなってきたと思うが、政治の不安定さがあり、先が見通せない。
		都市型ホテル	年末年始にむけて、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	3か月先は良くなっているとは判断しにくいいため、やや良くなっていると予想する。
		観光型ホテル	12月を除いてはなんとか数字は伸びていた。コロナ禍前と比較すると10分の1だが、それでも期待をすることができた。来春その数字がプラスに推移することを期待できなければ営業を辞めるしかなくなってくるため、やや良くなっていると判断する。
		道の駅	年末年始で客が外出すれば、売上げも上がるような気がするため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	各種原材料等の高騰が若干落ち着き、若干高めの販売品であっても売上げの上昇が見られるため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	全体の景気は、上向いてはいると思うので、購入にも反映されてくるかと思うため、やや良くなっていると判断する。
	設計事務所	円高を好材料として捉え、前向き感が若干は出てくるため、やや良くなっていると判断する。	
企業	サービス業（コンサルタント業）	一般消費者の消費が少しずつ増えているように感じるため、やや良くなっていると判断する。今後もこの傾向は続くと思う。	
変わらない	家計	商店街代表者	3か月先も変わらないと判断する。商品に対しての価格の問合せが増えている。物価上昇から客単価は上昇も、買上点数が減った。物価上昇を買上点数で調整し買控える状況が今後も継続すると思われるため、変わらないと判断する。
		スーパー	ボーナス支給額は増加傾向にあり、ようやく賃上げの動きがみられるようになってきたが、物価高騰によるインフレも続いており、今後の3か月に関しても可処分所得は変わらず、景気は横ばいになるかと予想している。
		コンビニエンスストア	原材料の高騰により、値上げの予定があり、買控えの話などを聞くため、変わらないと判断する。
		衣料品販売店	特に変化はないと思われる。
		農産物直売所	物価が上昇し人件費が高くなって、その分売上げが良くなっていないため、変わらないと判断する。
		レストラン	コロナ禍以前の景気に戻る気配がないため、変わらないと判断する。
		日本料理店	変わらないと判断する。海外旅行の需要が増えない限り、これ以上の旅行業界の回復は望めないと思う。
		旅行代理店	1月、2月は売上げが落ち込み、3月は戻る感じだと思うため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	価格高騰の影響がまだまだ続くと考えられるため、変わらないと判断する。
		道の駅	季節的に客足は減るが、例年並みの予約数のため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	飲食店では宴会の予約増加、視察研修参加者や親睦旅行への参加者増加など、「集まる」「出かける」人の増加が窺える。建設工業製造業関係は、原材料高騰やガソリン代の高騰による経費増加により、やや良くなっている程度に感じる。感染症流行期に比べれば、なだらかではあるが良い方向へ向かっている状況が、急激に良くなるとは思えない。まだまだ時間がかかるかと推測するため、変わらないと判断する。
		商店街代表者	観光地等の集客は多いと聞く。また、自身での感触として景気が上向きと感じられるのは円安等での外国人観光客の増加であり、日本人の景気は物価高(食材やガソリン、灯油等)による影響は大きい。また賃金アップが直接的な景気回復に影響は出ないと予想しているため、変わらないと判断する。
		クリーニング店	収入が増えても物価高による費用が増えるため、変わらないと判断する。
企業	農業関係者	農業関係者	秋から冬にかけて主力である葉物野菜(レタス・キャベツ・白菜等)の出荷最盛期を迎えているが、例年と比較し、平均単価を大幅に下回っており、かつ、世界情勢や為替相場の変動により出荷経費が上がっていることから、生産者の所得の減少が想定されることに加え、今後も果物物は夏以降の自然災害の影響が少なかったことから豊作傾向であり、暖冬の影響で葉物野菜の需要が比較的小さいことが想定され、低単価で推移するとの見方から景気自体が上向かないと判断する。
		製造業(食料品)	良くなる要素がないため、変わらないと判断する。

変わらない	企業	製造業（窯業・土石製品）	基調は良いが季節的に受注に反映されないと思うため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	材料、仕入部品の高騰、人件費の上昇をすぐに製品価格に転嫁出来るものではないため、しばらくは変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	中・長期の予測は難しいが、勤務変更や人員増減の要望が落ち着いている状況は続くと思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	発注企業の中で、国内向けの発注品は低調だが、輸出関連企業は高調を維持しているため、プラスマイナスで現状維持が続くと思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	季節的要因を除けば、変わらない傾向である。
		製造業（化学工業）	1～3月期はクリスマス商戦も終わり、また中華圏の旧正月の長期連休等の影響もあって需要が増加しない時期であり、顧客からの情報としても回復の見込みは薄いと考えられるため、変わらないと判断する。
		建設業	特に変化を感じないため、変わらないと判断する。
		金融業	人件費が増加してきているが、それに伴い家庭の支出も増加しており消費できる余力が見られないので、変わらないと判断する。
雇用	求人広告	この数か月で若干緩やかに回復はしたが、これ以上良くなる兆しが見えないため変わらないと思う。	
	人材派遣業	季節繁忙が穏やかだったことから、多くの企業で例年より物量が低下すると思う。半面、地域柄ではあるが大手企業での増産の話があり雇用創出が見込めるため、足し引きで変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	円安による経費の高騰が続き、利益率が上がらないまま推移すると考える。大企業においての賃上げはあるものの地元企業への波及は望めず、短期的には今の状況が続くと思われるため、変わらないと判断する。	
	求人開拓員	物価高の影響か、求職者が増えているように感じる。就活セミナーへの参加者も満席状態が継続しているため、状況は変わらないと判断する。	
やや悪い	家計	商店街代表者	新聞やTVを賑わせている政治家不正、ウクライナ・ガサ地区戦況等、明るいニュースがない。世情は暗いため、やや悪くなっていると判断する。
		自動車販売店	電力や燃料費が多くなる時期でもあり、食品の値上がりも変わらないと思うため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	このまま原材料や光熱費、梱包資材等の高騰が続き利幅が圧縮されるため、やや悪くなっていると判断する。
製造業（印刷・同関連業）		ガソリン、電気の値上がりが続いているため、やや悪くなっていると判断する。	
製造業（その他）		受注量が前年比97%と低調なため、やや悪くなっていると判断する。	
悪い	家計	製茶販売	イベント等があっても、出向いてはみるが過去のように露店などでの買物などはしないか最低限である。国で格安旅行等を謳っても、旅行できるのは一握りの人たちで、誰でもが旅行できるほど余裕はないため、悪くなっていると判断する。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	なるべく消費を抑える傾向にある。
	スーパー	節約志向は高まっているが、年末年始、節分等の催事に関しては、より高価格帯が動く傾向にある。
	コンビニエンスストア	今まで、飲み物は外で買っていたが水筒持参になった。
	小売業（弁当・惣菜店）	仕入物価の上昇や急激な賃金上昇によることに対する話題が多い。また、コロナ禍が過ぎて元のように戻らないとの話題も多い。コロナ禍にできた習慣は当面続くと思われ、何らかのインパクトがないとこれ以上の復旧は難しいだろう。
	衣料品販売店	基本的に、客は値段が安い物にいくようだ。衣料品に金は使わないようだ。使える金があるような政策をお願いしたい。
	小売業（酒類）	最近ウイスキーの販売に努力した結果、若い世代の客が少しずつ増えた。
	小売業（水産物）	物価高騰の話題をよく聞く。食品やガソリンの話題が多い。
	レストラン	政府を見ていると、景気を良くするというより、景気を抑制するような方針ばかり打ち出しているように思える。とにかく国民から税金等を巻き上げ、お金を使うことに対して抑える気持ちを高めているのではないか。中小企業に対しても、存続の有無を問われるような法改正・税制改正ばかりで、景気云々の話以前の問題だと思う。
	スナック	不景気と言いつつ、新車を買う人が多いように思う。
	日本料理店	観光地には日本人、外国人の客が増えてきているようだが、市内にはなかなか増えない。
	観光型ホテル	外国からの来客も増えている状況だ。インバウンド対応のため改めて準備している。新型コロナウイルスが終息したこともあり外国人が増えたと感じるが、円高も大きく影響しているのかと感じる。
	観光型ホテル	円安や物価高による経済の停滞のニュースをよく目にするが、秋のイベント、クリスマスに向けてのイルミネーションイベント等や複合商業施設等に出かけると、どこも大変な人出で、今年の同時期と比較して客の賑わいも増えていると感じられる。
	旅行会社	企業関係も諸団体も動きが出てきている。
	ドライブイン	事務処理が色々あり頭が痛い。手数料(銀行関係や、キャッシュレスで発生するもの)の負担が増加してきた。
レジャー施設	各種企業が行っている購買者向けのポイント付与に参加しているが、軒並み特定のキャンペーンが少なくなってきている印象がある。また、某コンビニエンスストアの割りばしに入っていた爪楊枝がなくなっていたり、各種企業は人件費等のコストが増加した分、削減するところが多いと感じる。また、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業では駐車場の空きが減ったように感じる。	
写真店	最初から予算を決めて、ある程度の範囲内で最初から財布の紐を固めている客が増えてきた。	
企業	林業関係者	丸太素材が不足気味で価格は好調。年明けから梅雨時期に関して価格の下落が大きな心配である。サプライチェーンを強固にし、安定供給に注力した。
	製造業（電気機械器具）	月並みであると思うが、また、絶対ではないが、取引先からの納期を守る、品質を確保する、また、価格も相談して決めていくという積み重ねが、信用、信頼の小さな砦になるのではないかと考える。
	製造業（電気機械器具）	以前は納期が見通せない物品があったが、最近はそのようなことはないように感じる。
	製造業（精密機械器具）	物価上昇は高止まりではあるが、景気の悪い話は少なくなってきたように思う。
	製造業（精密機械器具）	全てにおいて物価が上がり、買滞りの傾向があるように思う。
	建設業	建築業界として新築着工棟数が激減しているので、土地の開発造成分譲にどれくらい影響が出てくるか注視していきたい。
雇用	求人広告	老舗や規模感のある企業の廃業などをよく見聞きするようになってきている。
	公共職業安定所	生活面でみれば生活必需品や食品の値上げはジワジワと家計を圧迫している。様々なポイント還元や施策はあるが、直接生活に直結していないような感じがする。一度上昇した生活水準を下げることは厳しいのではないかと感じる。特に若年者にとって難しいのでは。このままいけば、県北の若年者の流出は止まらないと思われる。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	「物流の2024年問題」と言われて、また運送費の値上げの話が仕入先より届いており、コスト増が止まらない。
	商店街代表者	商品の値上げや支払い条件の改善を求める仕入先が増えてきている。
	小売業	年中行事、イベント等の需要が徐々に本来の姿に戻ってきている。
	スーパー	10月に実施した地元のPayPayキャンペーンは非常に好評で、客数、供給高ともに大幅に伸長した。新規の客も増加し、食品の20%への食いつきは異常だと感じた。とりわけ、米、酒、雑貨、食品類、たばこなどが大幅に伸長した。10月だけの状況を見れば景気が良いと回答できたかと思う。
	コンビニエンスストア	たばこの販売低下を感じる。
	酒・各種商品小売業	物価が上昇しているため観光客も少しの値上げは覚悟している感じで、価格の高いものが以前より売れていると思う。
	小売業	12月だからということもあるかもしれないが、道路が渋滞していたり近隣のコインパーキングが満車になっていたりということがだいぶ増えたように感じる。
	農産物直売所	ギフトとしての点数は毎年減少傾向。小袋詰めの商品などは動きが良い。
	日本料理店	外食する客が増えてきている。
	割烹料理店	最近では客足が悪いし客単価が低くなっている。この先の見通しが見えない。
	観光型ホテル	昨年と比べ、全ての物価が上がったと実感している。
	バス運転手	人手不足は自身の会社でも大きな課題だが、需要が見込まれる時に対応できるだけの人材が集まらないと、景気への影響も出てきてしまう心配がある。
	タクシー運転手	市内の繁華街は、コロナ禍前に比べても客数が戻っていないように感じる。
	道の駅	サイクリング・山登り・ハイキング・キャンプ等を楽しむ人が増えてきているが、金は落とさない。円安で燃料費が高騰している現状、消費が増えるとは思わない。年金など増えていけばいいと思う。
	レジャー施設	少しずつではあるが、近隣でもインバウンドの動きは見られるようになってきている。
	スーパー銭湯	温浴施設はここ数年サウナブームなどがあつたが、多くの異業種参入等もありオーバーストアの話がちらほら聞こえ始めた。
	写真店	新型コロナウイルスに関しては落ち着いてきたが、インフルエンザウイルスが常時流行っているため、仕事のキャンセルが通常の30倍ある。
	設計事務所	食料品のサイズ感がどんどん小さくなってきていて、ステルス値上げが進んでいるように思う。
	企業	製造業(食料品)
製造業(印刷・同関連業)		ペーパーレスの影響を受けていると感じる。
製造業(窯業・土石製品)		相変わらず墓石の注文は少なく、墓離れが進んでいるように思える。お墓の解体工事も増えている。すべての商品が値上げされており、買控えが進んでいるように思う。
製造業(金属製品)		世界的な自動車のEVシフトで、特に海外での日本車メーカーの苦戦から受注数に影響が出始めている。また、車載電池など1台当りの搭載数が多い部品の構成品について、コストダウンを含めた新技術開発で競争が激化している。既存部品の生産改善で企業としての基盤を強化しつつ、ここで得た資源を新技術開発～新製品獲得に如何に繋げていくかが喫緊の課題である。
製造業(一般機械器具)		半導体不足がほぼ解消され、大手企業の自動車生産台数や利益は良い数字が出ている。しかし円安のため輸出する台数も多く、国内で手に入れるのは困難である。このような状況であるが自動車の仕事は依然として増えてこない。
製造業(精密機械器具)		コロナ禍が明けたのか、混んでいて忘年会の会場を取るのが大変だ。
建設業		物価の高騰が感じられ、消費意欲がなくなっているように感じる。
運輸業(道路貨物運送業)		2024年問題の影響で輸送能力が低下し、約10%の貨物が運ぶことができないと示されており、さらに2030年にはドライバー不足も相まって30%を超えるとされている。車輛の大型化や大量輸送が可能なモーダルシフトが見直されてきている。
金融業		ある地域では新施設等を中心とした街づくり、リゾート開発など観光・インバウンドに力を入れた施策が行われている。
不動産業		運輸業界・建築業界の働き方改革、円安による材料費高騰、エネルギー価格高騰、増税基調、JOB型雇用による個人所得低迷など、日本においては各産業共に伸び悩み、経済規模はサイズダウンしていくのではないかと思う。
情報通信業(情報サービス業)		コロナ禍の時期と比べれば、年末年始での飲食や会合等は顕著に増えている。
雇用	公共職業安定所	9月調査時と同様に、60歳以上の求職者が増加傾向である。物価高で年金だけでは心もとなく、動けるうちは収入を得たいとの意見がある。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	コンビニエンスストア	値上げが恒常的に続いて、このタイミングで他のチェーン店では主力商品の値下げなどで客数を獲得する策を講じているが、値段だけでなく商品のクオリティに注目している消費者が増えているため、安くてハイクオリティないし、コストパフォーマンス・タイムパフォーマンスを意識した商品構成が重要度を増してくると言える。
	衣料品販売店	たださえ売上げが厳しいうえ、暖冬で単価の高い冬物が売れない。暖冬のせいなのか物価高で衣料品の購入は後回しなのか、多分どちらもだと思ふ。
	農産物直売所	夏過ぎから業務用のトラックなどの交通量が増えている感じはしているが、それが間接的にでも影響しているとは感じない。
	小売業（薬品店）	週末のショッピングモール等は以前より客が格段に増えていると感じる。
	小売業（食品）	良い話は聞かない。
	小売業（書店）	生活必需品の値下げをするまで、厳しい状況が続くと感じている。
	洋食食堂	近年、ラジオ・テレビの取材を受けており、町おこしのつもりで取材を受けているが、マスコミの力は凄まじく、売上げの伸びに大いに貢献している。
	日本料理店	飲食店の廃業が目立つ。夜がまだまだ賑わっていない。
	運転代行	物価の値上がり特に目立ち、日常生活に大きく影響を与え、この先どうなることだろうと不安に思う。
	タクシー運転手	何でもかんでも値上げが続いては、景気回復は見込めない。経済を安定させなければダメだ。日本だけの問題ではない。世界を変えなくては。頭の良い人がたくさんいるのに、なぜ出来ないのか。思いやりに欠けている。人間同士仲良くしなくてははいけない。
	レジャー施設	温暖化の影響が商品によっては出てきている。温暖化によって安値になった生産者、会社はさらに厳しい年越しになると思う。
住宅販売会社	リフォームの問合せは多くなっているが、新築の問合せは変わらずか少なくなっている。	
企業	農業関係者	昨年より、売上げは変わらないが平均客単価が落ちている状況である。これは、物価高の影響で、不必要な物は買わない消費者が増えていると思われる。
	製造業（その他）	生活必需品が高いという嘆きが聞かれる。
	製造業（食料品）	祭事やイベントがコロナ禍明けより復活している。それらに関しては来場客が多く、出店も売れている。
	製造業（精密機械器具）	受注が多く間に合わないため、工場を増設した。
	建設業	ブラックフライデー、年末年始商戦が活発化している昨今だが、歳暮の商品内容や年賀状の欠礼通知が届くたび、景気の厳しさを感じずにはいられない。
	建設業	物価上昇による賃金の引き上げを考えなければならない時期である。昨年同様の上昇率にするためには今後の受注を伸ばす必要があるが、人員不足によって受注が制限される恐れがあるため、今後も注視していきたい。
	運輸業（道路貨物運送業）	大手企業の人員削減で、人が弊社に流れて来るのを期待している。
	金融業	個人消費の回復に伴い、小売業を中心に売上げが回復している印象。また、各地で祭事やイベントの開催も行われており、コロナ禍前の賑わいが戻ってきている。
不動産業	こんなに暖冬だと冬物の動きが鈍いとのこと。	

(4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	PB商品への理解が高くなっているように感じる。
	スーパー	相次ぐ競合出店により商圏内の勢力図が大きく変化し、商圏内の消費者は以前よりも明らかに価格に敏感になっており、1円でも安い店舗を買回する傾向が強まっている。
	小売業	買上げ客数の推移から、光熱費・物価の上昇が影響している事が予想される。一方で単価は上昇しており、コストパフォーマンスが高いものと本当に必要なものでなければ購入に至らない傾向にあると感じる。
	小売業（米穀）	特に地方は流通が酷い。思うように商品の入荷が出来ない状態。都内と地方の差が益々広がっているように感じる。
	洋食レストラン	飲食店が新たにオープンしている。空き店舗が少なくなっているのに、景気が良くなったのだろうか。
	食堂	団体客（20名前後）が多くなってきた。
	レストラン	決して多くはないが、若干のインバウンド客が戻ってきた。
	都市型ホテル	半年先の予約（宿泊団体、宴会、会議）の見積書の提出を要求されるが、原価高騰が続く中で見えない部分も多いので、見積書が出しづらく、暫定では客も納得して見なくて困っている。
	都市型ホテル	時世が物価高なので、当施設も若干値上げに踏み切った。何と言っても一番気になるのは物価高だ。コンビニでもスーパーでも当たり前のように商品が高い。それに比べ賃金は変わらないのだから節約する人が多くなったと思う。
	タクシー会社	テーマパークなどでの入場規制、並ぶ人数や時間が、去年と比べると明らかに人が動いていると感じる。
	サービスエリア	物価の上昇が続く状況で、売上げとしては以前の状態を維持出来ていても、客数が下回る状況が目立っている。
	ゴルフ場	インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスもまた少し増えているようだ。皆が集まって感染するという事は景気が良いとも思われる。
住宅販売会社	不動産の販売価格、賃料も上げ止まり感があり、金額の高い物件は値下げが始まっている。	
企業	農業関係者	ここにきて、店舗に並ぶ商品の価格の値上げが著しく感じられる。それに伴う買控え、欲しい物の購入を後回しにする傾向がある。賃上げが進まない企業も多くあると思われ、景気の後退が懸念される。
	製造業（飲料）	地元で自治体にて産科を誘致するニュースが出ていることから、子供を育てやすいまちの環境が整うことで、人の動きも活発になるのではないかと思われる。
	製造業（印刷・同関連業）	各地方の経済の低迷は、人口減少に起因するところが大きい。県・市町村にとって、いかに人口流出を防ぎ流入を増やすかが大きな課題。みんな分かっていることだと思う。
	製造業（窯業・土石製品）	食品の値上げがステルスではなくはっきりと目に見える程になっている。
	製造業（非鉄金属）	2023年12月までは受注は良好に推移したものの、2024年からは受注が落ち込む可能性がある。
	製造業（その他）	海外向け製品などはストップしている所が多いようだが、国内向けで動かしている会社が多いように見受けられる。
	運輸業（倉庫業）	新型コロナウイルスに関する規制緩和による景気上昇が言われている。個人的には先を考えると贅沢は控えているつもりだが、外食の機会は増えてきている。
	金融業	取引先の事業者で新型コロナウイルス対策融資を利用しているが、一部の取引先は元金返済開始時期が迫ってきており、資金繰り安定のため元金据置の延長を希望する客が増えているので、企業の資金繰りには予断を許さない状況が続いていると感じられる。
雇用	学校就業関係者	ハローワークを訪問した際に、求職者が少なくなったと感じており、求職者が少ないということは雇用環境は良いのではないかと感じる。
	求人開拓員	物価が高止まりしていて、何かが増えた分を食費と可処分経費で調整しているような気がする。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	ここにきて、シャッターを下ろす個人商店が2~3店舗見受けられる。寂しい限りだ。
	コンビニエンスストア	物価高騰が続いている中、比較的単価の安い商品が好まれる傾向があると感じる。コンビニエンスストアにおいては、年末商材であるクリスマスケーキやおせちに関しても単価の低い商品が例年よりも好まれていると感じている。
	家電販売店	地域性があるかもしれないが、リフォーム関連の相談が昨年よりも増えている。
	製茶販売	年寄りがほとんど出歩かない。寒いからだろうか。金に余裕がある人たちが出歩かないし動かないから、お金も周ってこない。
	食堂	家を建てる人が多くなったように思える。
	和食レストラン	完全に外食生活のリズム（時間が）昼型になっている。土日と同じである。宴会が入らない限り、夜の集客が難しくなっている。
	旅行代理店	製造業や建設業は順調に思える。
	観光型ホテル	他の情報を聞く限りでは売上げを速やかに伸ばしている事業所はたくさんあるようだ。自助努力が足らないと反省している。コロナ禍の状況に慣れてしまい過ぎた。売上げを上げることが諦めてしまっていた。
	レジャー施設	現状では大きな変化は見られない。
	商店街代表者	イベントの各種開催、バス旅行への参加者増加や感染症流行期と比較して融資申込者の減少などがある。
	クリーニング店	経済が活性化するには、消費者が例外なくお金を使える環境にすることだ。
	設計事務所	景気の回復が目前ではないかと、期待感のようなものに包まれている。
	設計事務所	下請け等の依頼で受注がいっぱい、受けられないという話がある。
企業	製造業（窯業・土石製品）	燃料や電力、レートの変動などのコスト増の背景の販売価格の値上げ交渉が受け入れやすくなったと感じる。
	金融業	工業団地の造成が進んでいるが、地方において人口が減少している中、労働者確保が難しい点と地方の労働者が工業団地の従業員として就職すると、地域の中小企業にとって益々厳しくなる様子がある。
	不動産業	障害者、精神障害者対応の多数の施設事業者が物件を探している。
	サービス業（コンサルタント業）	飲食店での小規模の飲み会が多くなっているように見受けられる。コロナ禍における自粛にも疲れてきたのではないかと思う。
雇用	求人広告	採用広告を出した際、年配の人の応募が多く、高校生・大学生前後の若者の応募が少ない印象があるとのこと。また、上記は慢性的な部分もあるが、最近は主婦の応募が増えているとのこと。
	人材派遣業	自社雇用比率を上げ派遣活用の見直しをかけ、人件費削減を進めている企業が増えている印象がある。
	学校就業関係者	県内・外より求人はあるが、学生が少なく人手不足が懸念される。ものづくりに興味のある学生が、少なくなってきたように思う。
	求人開拓員	10月に小旅行した際、多くの人出があり道も混雑していて活気を感じたが、最近の物価高や実質賃金の低下に加えて、国際情勢の悪化は、マインド的にはマイナスに感じている。